

取 扱 説 明 書 ^{製品コード} 型 式 K98345 **MGL604P** 製品コード 型 式

K98346 **MGL1204P**

スパウトタイプ

部品ご注文の際は、ネームプレートをお確かめの上、 部品供給型式を必ずご連絡下さい。

"必読"機械の使用前には必ず読んでください。

株式会社**|||**アグリテック

製品コード	型式	規格 [l]	全長 [mm]	全幅 [mm]	全高 [mm]	重量 [kg]	散布 方式	連結 方式	適応トラクタ kW (PS)
K98345	MGL604P	600	1600	1900	1050	285	スパウト	3P 直装	33~59 (45~80)
K98346	MGL1204P	1200	1650	1950	1350	300	スパウト	3P 直装	51.5 ~ 88 (70 ~ 120)

■仕 様 *仕様は予告なく変更になる場合があります。

はじめに

本製品について

本製品は誘導機能および計量機能を備えたブロードキャスタです。 本製品の誘導機能はGPS^{*1}、SBAS^{*2}からの測位信号をもとに得られる位置情報を用いて、最初の 走行を記憶し、一定間隔離れたラインへ誘導するシステムです。

ブロードキャスタの散布量は、設定により、誘導機能・車速連動機能および計量機能と連動し自動調整されます。

ナビゲータの画面表示に合わせて、走行するには慣れが必要となります。 本説明書を理解し、十分に動作確認をした上で、作業してください。 ナビゲータの画面表示のみを見て作業すると、思わぬ事故を起こすことがあります。 前方や周囲へ、十分に注意を払いながら運転してください。

作業出来ないほ場について

- ●近くに大きな建物のあるほ場
- ●防風林のそばや樹木に囲まれたほ場
- ●高圧電線のそば
- 山間地

等のGPSおよびSBASからの電波が受信できないところでは作業出来ません。

- ※ 本システムは、GPSおよびSBASからの電波を受信し利用しています。これらの衛星の電波が停止し ている状態や、故意に精度を落とされた状態では作業できません。
- ※ 時間経過に伴い、誘導位置がずれることがあります。

*1 GPS:米国の国防総省によって運用される衛星測位システム

*2 SBAS:準天頂衛星みちびきから配信される衛星航法補強システム

使用地域について

日本国内で使用してください。

計量機能について

本製品は特定計量器ではありません。 本製品により計量した重量は取引および証明には使用できません。

▲ 安全に作業するために

安全に関する警告について

▲印付きの警告マークは安全上、特に重要な項目を示しています。 警告を守り、安全な作業を行ってください。





ラベルが損傷したときは 一 警告ラベルは、使用者および周囲の作業者などへ危険を知らせる大切なものです。 ラベルが損傷したときは、すみやかに貼り替えてください。 注文の際には、この図に示す 部品番号 をお知らせください。

安全上の注意点

ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡 を含む傷害を生じるおそれがあります。 作業前には、作業機およびトラクタの取扱説明書を よくお読みになり、十分に理解をしてからご使用く ださい。

作業前に

- 取扱説明書は製品に近接して保存を -

- 🛕 注意
- 機械の取り扱いで分からない事があったとき、取扱説明書を製品に近接して保存していないため、自分の判断だけで対処すると思わぬ事故を起こし、ケガをする事があります。
 取扱説明書は分からない事があったときにすぐに取り出せるよう、製品に近接して保存してください。

- 取扱説明書をよく読んで作業を

- ▲ 注意
- 取扱説明書に記載されている安全上の注意 事項や取扱要領の不十分な理解のまま作業 すると、思わぬ事故を起こす事があります。
 作業を始めるときは、製品に貼付している警
 告ラベル、取扱説明書に記載されている安全
 上の注意事項、取扱要領を十分に理解して から行ってください。

— こんなときは運転しないでください — ▲ 警告

●体調が悪いとき、機械操作に不慣れな場合などに運転すると、思わぬ事故を起こす事があります。

次の場合は、運転しないでください。

□過労、病気、薬物の影響、その他の理由
 により作業に集中できないとき。
 □酒を飲んだとき。

- □機械操作が未熟な人。
- □妊娠しているとき。

- 服装は作業に適していますか -

▲ 警告

作業に適さない服装で機械を操作すると、衣服の一部が機械に巻き込まれ、死亡を含む傷害をまねく事があります。
 次に示す服装で作業してください。

- □袖や裾は、だぶつきのないものを着用する。
- ロズボンや上着は、だぶつきのないものを着 用する。
- ロヘルメットを必ず着用する。
- □はちまき、首巻きタオル、腰タオルなどはしない。

- 機械を他人に貸すときは -

▲ 警告

機械を他人に貸すとき、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領が分からないため、思わぬ事故を起こす事があります。
 取扱い方法をよく説明し、取扱説明書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

— 機械の改造禁止 —

▲ 注意

機械の改造や、当社指定以外のアタッチメント・部品などを取り付けて運転すると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。
 機械の改造はしないでください。
 アタッチメントは当社指定製品を使用してください。
 部品交換するときは、当社が指定するものを使用してください。

— 始業点検の励行

▲ 警告

 機械を使用するときは、取扱説明書に基づき 始業点検を行い、異常箇所は必ず整備を行っ てください。
 守らないと、機械の破損を引き起こすだけで

なく、機械に巻き込まれる等の思わぬ事故により、死亡または重傷を負う危険性があります。

- エンジン始動・発進するときは

▲ 警告

- エンジンを始動するとき、トラクタの横やス テップに立ったまま行うと、緊急事態への対 処ができず、運転者はもちろん周囲にいる人 がケガをする事があります。
 運転席に座り、周囲の安全を確認してから 行ってください。
- エンジンを始動するとき、主変速レバーを「N」(中立)にして行わないと、変速機が接続状態になっているため、トラクタが暴走し思わぬ事故を起こす事があります。
 主変速レバーを「N」(中立)にして行ってください。

- PTOを切らないでエンジンを始動すると、
 急に作業機が駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。
 - PTOを切ってから始動してください。
- 急発進するとトラクタ前輪が浮き上がる事があり、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。
 周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進してください。
- 室内で始動するとき、排気ガスにより中毒になる事があります。
 窓、戸などを開け、十分に換気してください。

- 作業機を着脱するときは -

▲ 警告

作業機を着脱するためにトラクタを移動させるとき、トラクタと作業機の間に人がいると、挟まれてケガをする事があります。
 トラクタと作業機の間に人を近づけないでください。

▲ 注意

作業機をトラクタに着脱するとき、傾斜地や
 凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。

平坦で地盤のかたい所で行ってください。

装着するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。
 トラクタへフロントウエイトを取り付け、バランスを取ってください。

- パワージョイントを使用するときは -

▲ 危険

- カバーのないパワージョイントを使用する と、巻き込まれてケガをする事があります。 カバーのないパワージョイントは、使用しな いでください。
- カバーが損傷したまま使用すると、巻き込ま れてケガをする事があります。 損傷したらすぐに取り替えてください。 使用前には、損傷がないか点検してください。
- トラクタおよび作業機に着脱するとき、第三 者の不注意により、不意にパワージョイント がが回転し、ケガをする事があります。
 PTOを切り、トラクタのエンジンをとめて 行ってください。
- カバーのチェーンを取り付けないで使用する と、カバーが回転し、巻き込まれてケガをす る事があります。
 トラクタ側と作業機側のチェーンを回転しない所に連結してください。

🛕 注意

最伸時の重なりが100mmを下回ると、ジョイントを回転させたとき、破損しケガをする事があります。
 最縮時の隙間が25mmよりも小さくなると、ジョイントの突き上げが起きる事があり、ジョイントの破損をまねき、ケガをする事があります。
 適正な重なり量で使用してください。
 パワージョイントを接続したとき、クランプ

ピンが軸の溝に納まっていないと、使用中に 外れ、ケガをする事があります。 溝に納まっているか、接続部を押し引きして 確かめてください。

本機をトラクタにマッチングして公道走行するとき は下記の法令を順守してください。 道路交通法、道路車両運送法、道路法。

- 公道走行するときは -

▲ 危険

公道走行するときは公道走行関連法令を守り、周囲の安全確認を必ず行ってください。
 また、トラクタおよび作業機の周囲に人を近づけさせないでください。
 守らないと周囲の人を巻き込み、死亡また

は重傷を負わせることになります。

公道走行するときはPTOを入れないでください。

守らないと周囲の人を巻き込み、死亡または重傷を負わせることになります。

 公道走行するときは運行速度15km/h以下 で走行してください。

但し、日本農業機械工業会ホームページにて 車両(トラクタ)と作業機の組み合わせの安 定性が確認されている場合は、運行速度35 km/h以下での運行が可能になります。 その場合は制限車両ラベルと運行制限ラベル をはがしてください。

<u>※一般社団法人日本農機機械工業会</u> http://www.jfmma.or.jp/koudo.html



▲ 警告

- 公道走行するときは作業機がトラクタにしっかりと装着されていることを確認してください。
 守らないと走行中に作業機が外れ、周囲の人に当たり、死亡または重傷を負う危険性があります。
- 公道走行するときは作業機に肥料、工具、部品などを積載した状態で走行しないでください。
 守らないと走行中に積載物が落下し、死亡または重傷を負う危険性があります。
- 作業機のホッパが固定されているか確認して ください。

守らないと走行中にホッパが外れ、周囲の 人に当たり、死亡または重傷を負う危険性が あります。

 公道走行する前に灯火器、反射器の点検・ 清掃を行ってください。

灯火器が点灯しない場合には部品を交換して ください。

また、夜間走行時は作業機の尾灯を点灯させ てください。

守らないと、後続車に追突されるなど思わ ぬ事故に巻き込まれ、死亡または重傷を負う 危険性があります。

▲ 注意

- 作業機の重みによりトラクタの制動距離が延びる可能性があります。
 早めにブレーキをかけるようご注意ください。
- 作業機に付着していた肥料、土などが道路上に 危険な状態で放置されると法令違反となります。
 公道走行する前に清掃を行い、付着物を除 去してください。

- 移動走行するときは —

▲ 危険

 移動走行するとき、トラクタのブレーキペダ ルが左右連結されていないと、片ブレーキに なり、トラクタが左右に振られ横転などが起 こり、思わぬ事故をまねく事があります。 ほ場での特殊作業以外は、ブレーキペダルは 左右連結して使用してください。

▲ 警告

 トラクタに運転者以外の人を乗せると、トラ クタから転落したり、運転操作の妨げになっ て、緊急事態への対処ができず、同乗者はも ちろん、周囲の人および運転者自身がケガを する事があります。
 トラクタには、運転者以外の人は乗せないで ください。

- 急制動・急旋回を行うと、運転者が振り落と されたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ 事故を起こす事があります。
 急制動・急旋回はしないでください。
- ●坂道・凹凸地・急カーブで速度を出しすぎると、転倒あるいは転落事故を起こす事があります。

低速走行してください。

- 旋回するとき、作業機が旋回方向とは逆方向 にふくれるため、周囲の人に接触しケガをさ せたり、対向物・障害物に衝突しケガをする 事があります。
 周囲の人や対向物・障害物との間に十分な間
- 側面が傾斜していたり、側溝がある通路で路 肩を走行すると転落事故を起こす事がありま す。

路肩は走行しないでください。

隔を保って行ってください。

- 高低差が大きい段差を乗り越えようとする
 と、トラクタが転倒あるいは横転し、ケガを
 する事があります。
 あゆみ板を使用してください。
- 作業機の上に人を乗せると、転落し、ケガを する事があります。
 また、物を載せて走行すると、落下し、周囲 の人へケガを負わせる事があります。
 作業機の上には、人や物などはのせないでく ださい。

▲ 注意

作業機への動力を切らないで走行すると、周囲の人を回転物に巻き込み、ケガを負わせる事があります。
 移動走行するときは、PTOを切ってくださ

 $\langle v \rangle_{\circ}$

- 作業するときは -▲ 警告 ● 作業機指定のPTO回転数を超えて作業する と、機械の破損により、ケガをする事があり ます。 指定回転数を守ってください。 ● 作業機の上に人を乗せると、転落し、ケガを する事があります。 また、物を載せて作業すると、落下し、周囲 の人へケガを負わせる事があります。 作業機の上には、人や物などは載せないでく ださい。 ● 傾斜地で速度を出しすぎると、暴走事故をま ねく事があります。 低速で作業してください。 下り作業をするとき、坂の途中で変速すると、 暴走する原因となります。坂の前で低速に変 速して、ゆっくりとおりてください。 わき見運転をすると、周囲の障害物の回避や、 周囲の人への危険回避などができず、思わぬ 事故を起こす事があります。 前方や周囲へ、十分に注意を払いながら運転 してください。 ●手放し運転をすると、思わぬ方向へ暴走し、 事故を起こす事があります。 しっかりとハンドルを握って運転してくださ 1 ●ハウス内などの室内作業をするとき、排気ガ スにより中毒になる事があります。 窓、戸などを開け、十分に換気をしてくださ V. ▲ 注意 ●散布作業中、飛散物が当たりケガをする事が あります。 周囲に人を近づけないでください。 ●機械の調整や、付着物の除去などを行うとき、 PTOおよびエンジンをとめずに作業する

PTOおよびエンジンをとめずに作業する と、第三者の不注意により、不意に作業機が 駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。 PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可 動部がとまっている事を確かめて行ってくだ さい。 — トラクタから離れるときは -

▲ 警告

 トラクタから離れるとき、傾斜地や凹凸地な どに駐車すると、トラクタが暴走して思わぬ 事故を起こす事があります。
 平坦で安定した場所に駐車し、トラクタのエ ンジンをとめ、駐車ブレーキをかけて暴走を 防いでください。

トラクタから離れるとき、作業機をあげたままにしておくと、第三者の不注意により不意に降下し、ケガをする事があります。
 下限まで降ろしてからトラクタから離れてください。

作業が終わったら

- 機体を清掃するときは -

▲ 注意

 動力を切らずに、回転部・可動部の付着物の 除去作業などを行うと、機械に巻き込まれて ケガをする事があります。
 PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可 動部がとまっている事を確かめて行ってくだ さい。

- 終業点検の励行 -

🛕 危険

パワージョイントを外すとき、エンジンをとめずに行うと、思いがけない原因でパワージョイントが回転し、ケガをする事があります。
 エンジンをとめて行ってください。

🛕 注意

- 作業後の点検を怠ると、機械の調整不良や破損などが放置され、次の作業時にトラブルを起こしたり、ケガをする事があります。
 作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。
- 3点リンクで作業機を持ち上げて点検・調整 を行うとき、第三者の不注意により、不意に 降下し、ケガをする事があります。
 トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして 行ってください。

不調処置・点検・整備をするとき

▲ 警告

 配線に損傷があると、発煙・発火につながる おそれがあります。
 損傷がある場合には作業を中止し、部品交換 を行ってください。

▲ 注意

- 機械に異常が生じたとき、そのまま放置すると、破損やケガをする事があります。
 取扱説明書に基づき行ってください。
- ・傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、
 トラクタや作業機が不意に動き出して、思わ
 ぬ事故を起こす事があります。
 平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- PTOおよびエンジンをとめずに作業する と、第三者の不注意により、不意に作業機が 駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。 PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可 動部が止まっている事を確かめて行ってくだ さい。
- 作業機をあげた状態のまま下にもぐったり、 足を入れたりすると、不意に降下し、ケガを する事があります。
 下に入るときは、台などで降下防止をして 行ってください。
- 不調処置・点検・整備のために外したカバー 類を取り付けずに作業すると、回転部や可動 部に巻き込まれ、ケガをする事があります。 元通りに取り付けてください。



<

Ł

1

- 8 -

5	作業の仕方
	1本製品の使用目的31
	2作業のための調整31
	1. PTO回転速度31
	2. 地上高と姿勢の調整31
	3. 最大積載重量
	3作業の流れ32
	4搭載機能33
	5作業前設定33
	1. コントロールボックスの作業前設定…34
	2. ナビゲータのメニュー設定35
	3. 外周均等割有効設定
	4. 外周均等割無効設定40
	6基本作業41
	1. 肥料の投入42
	2. 種子の散布方法42
	3. 散布方法42
	4. 隣接散布43
	5. 外周散布後内工程散布44
	6. フリーラン
	7. シャッタ 18 段階モード起動46
	7 応 用 機 能48
	1. ブレークリターンシステム48
	2. 肥料の追加49
	8作業時の注意50
	1. 砂状散布
	2. 作業可能範囲50
	3.外周作業後内工程作業可能なほ場形状…50
	4. 旋回時の注意52
	5. 旋回半径が大きいときの注意 …53
	6. ロボットトラクタや 自動場端を使用する担合…52
	ロ助飛艇で区内りる場面…33









配線図 9

トラクタへの装着

適切な装着で安全な作業をしましょう。

1 各部の名称とはたらき

1

本体側(ブロードキャスタ)



1. 電動シャッタ

トラクタの作業速度、肥料の散布状況に応じてシャッタ開度を自動的に調整します。

2. ロードセルユニット 積載肥料重量を測定します。

測定した重量をもとに電動シャッタを自動調整します。

3. ロッドエンド

シャッタの全開または全閉時に落下口が全開または全閉となるように、アジャスタを固定しているナット; M10で微調整します。

4. ホッパ・サブホッパ

ホッパ(600 l) にサブホッパ(600 l) を組付けることで肥料を1200 l 積載できます。 ホッパは後方に倒すことによって反転し、容易に清掃・点検ができます。

5. パワージョイント: SSB-60(標準タイプ)

トラクタからブロードキャスタのスパウトおよびホッパ内のスクレーパを駆動します。

6. リアランプ・バックランプ

トラクタと連動し、ランプが点灯します。公道走行するために必要な部品です。

7. スタンド

格納時に機体を支えます。作業時には取り外して別途保管してください。

8. スパウト

肥料散布口です。肥料などが付着して重くなると、破損の原因や散布精度低下の原因となりますのでシャッタ部と合わせて、こまめな清掃を心掛けてください。



9. GPSレシーバ

GPS信号を受信します。

10. コントロールボックス 本体側(ブロードキャスタ)の基本設定や、作 業の開始・停止を行います。

11. ナビゲータ

GPSレシーバから受け取ったGPS信号で経路募事を行います。

ロードセルユニットの設定や、車速情報、ロー ドセルユニットから受け取った肥料の散布状況 に応じて電動シャッタを制御します。

2 適応トラクタの範囲

\Lambda 注 意

装着するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。
 トラクタへフロントウエイトを取り付け、バ

ランスを取ってください。

※適応トラクタ馬力の範囲内であっても前輪荷 重が軽くなってしまう場合があります。適正 な荷重配分は前輪荷重 20%以上、後輪荷重 80%以下です。

ご使用のトラクタで荷重配分条件を満たす ことができるかご確認ください。

本製品は、適切なトラクタとの装着により的確に性 能を発揮できるように設計されています。 不適切なトラクタとの装着によっては、本製品の耐 久性に著しく影響を及ぼしたり、トラクタの運転操 作に著しい悪影響を及ぼす事があります。

この製品の適応トラクタは次のとおりです。

型式	適応トラクタ
MGI 604PM	$33 \sim 59 \mathrm{kW}$
MGL0041M	$(45 \sim 80 \text{ PS})$
	51.5 \sim 88 kW
MGLIZU4FM	$(70 \sim 120 \text{ PS})$

本製品の適応トラクタより小さなトラクタで使用す ると、負荷に対し十分なパワーがでない事がありま す。

逆に、適応トラクタよりも大きなトラクタでのご使 用は、過負荷に対し機体の適正値を越えたパワーが 出てしまい、作業機の破損の原因になる事がありま す。

※本製品はトラクタ標準3点リンク直装式です。

3 オプション

品	番	名	称	用	途	
16040	30000	ヘンナ ハーオ	マン	トラクタ(品取しし 格、7P= 備されて 火器を取 に使用しる	則の外部 ロが D コネク た く い の け に 、 の 外部 ロ が D コ ネ ク 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、	部 N R N R N R N R N R N R N R N R N R N
16026	90000	シャッ SSY	vタA	硬い鉱物 た摩耗性 散布時に(等が含 の高し 更用しる	きまれ ヽ肥料 ます。
14885	50000	ヒリョ リュウ ソクテ	ウ ^ドウ -イキ	より精度(行うため、 違いによる いを確認 用します。	の高い 肥料 る 散 布 す る と る	散布をの 生状の 違 をに使
15345	00000	ブラク クミ	-ット ;	コントロ- をトラク? 手に取り 使用します	ールボ [、] タのドご 付ける。 す。	ックス ア取っ ときに

※1本機は日農工標準規格に準じた配線および8 Pコネクタを採用しています。コネクタが合わ ない、もしくはトラクタ側と連動しない場合は 「8-5 配線図」を確認のうえ、販売店にご相談 ください。

1. 解梱

木枠もしくは金枠に固定している部品をほどい てください。

2. 組立部品の明細

梱包に同梱されている梱包明細に基づき、必要 部品が揃っているか確認してください。 各部品の組立に必要なボルト・ナット類は、梱 包明細の符号を参照してください。

3. サブホッパ組立

お買い上げ型式が 1200 0 タイプの場合は、 ホッパにサブホッパをM8ボルトで固定します。

ボルト; M8×30 (ステンレス)



4. スタンド組立

フレームにスタンドを図の向きで装着してくだ さい。



5. 電動シャッタ、アジャスタ組立

電動シャッタをフレームにボルトで固定します。 アジャスタを図の向きでレバーにボルトで固定します。 (他ブロキャス型式と組付け向きが違うので注意してください。) ナイロンナットを使用していますがロッドエンドを使用しているため、通常トルクで締め付けて問題ありま せん。(締め付け後、半回転緩める等の作業は必要ありません。) アジャスタをシャッタにベータピンで固定します。



5 トラクタへの装着

▲ 警告

作業機を装着するためにトラクタを移動させるとき、トラクタと作業機の間に人がいると挟まれてケガをする事があります。
 トラクタと作業機の間に人を近づけないでください。

▲ 注 意

- ナビゲータ、コントロールボックス等、トラ クタ車内に配置する部品に関しては、運転の 妨げにならない所に取り付けてください。
- 作業機をトラクタに装着するとき、傾斜地や
 凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。
 平坦で地盤のかたい所で行ってください。

装着するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。
 トラクタへフロントウエイトを取り付け、バランスを取ってください。

1. 装着前の準備

本作業機の装着方法は、標準3点リンク直装式 です。作業機の下がり量が不足する場合は、リ フトロッドの取り付け穴位置をロワーリンクの 前側の穴に移してください。

特殊3点リンク式のロータリーを使用している 場合には、トップリンクの連結部を外し、標準 3点リンク用の長いトップリンクを使用してくだ さい。



トラクタへの装着
 トラクタ3点リンクへブロードキャスタの3点を

トラクタ3点リンクヘンロードキャスタの3点を 連結します。

- (1)トラクタのエンジンを始動して、ロワーリンク 先端部がブロードキャスタの左右のロワーリン クピンの位置が合うまで後進して、トラクタを とめてください。 エンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてください。
- (2) 左側のロワーリンクを連結し、抜け止めにトラ クタに付いているリンチピンをロワーリンクピ ンに差してください。 次に、右側のロワーリンクも同じ順序で行なっ てください。 カテゴリーIのトラクタは内側、カテゴリーII のトラクタは外側に連結してください。
- (3)トップリンクを連結し、トップリンクピン;Ⅰ・ Ⅱで固定し抜け止めにベータピンを差してくだ さい。
- (4) 左右のロワーリンクが同じ高さになるように、 トラクタ右側のアジャストスクリュウで調整し てください。
- (5) PIC軸芯がトラクタ中心におおよそ一致する よう、チェックチェーンでセットし、作業機の 横振れをなくしてください。
- (6) スタンドを外してください。
- (7)肥料落下口(スパウト先端部)が地上より60 ~70 cmの高さになるようトラクタの油圧レバー を操作し作業機を持ち上げてください。このと き横方向から見て、作業機が垂直になるように トップリンクの長さを調整してください。

— 取扱い上の注意 -

- 作業機の傾きが大きいと計量機能に影響を与えるため、できるだけ作業機が水平になるように調整してください。
- ロワーリンクがスイッチ操作で勢いよく最上 部まで自動上昇する機構を持ったトラクタが あります。手動で干渉の無いことを確認し、 十分余裕をとって上がり規制を行ってください。

3. 電装品の装着

- 取扱い上の注意 -

(1) コントロールボックス
 コントロールボックスをトラクタ運転席の操作しやすい場所に取り付けてください。
 オプションのブラケット;クミ使用の場合は右ドア取っ手に、ブラケット;クミを取り付けてください。
 コントロールボックスはブラケット;クミに取り付けてください。(マグネット固定)

● 運転の邪魔にならない所に取り付けてくださ

- い。 コントロールボックス 「「「「「「」」」」 「「」」」 153450 ブラケット:クミ (オプション)
- (2) GPSレシーバ

キャビン上中央部にアンテナベースを取り付け てください。(両面テープ固定) GPSレシーバの凸部が進行方向、LEDが後 方に向くようを取り付けてください。(マグネッ ト固定)

- 取扱い上の注意 ―――

- 接着面に汚れがあると外れるおそれがあるので、きれいに清掃後に取り付けてください。
- 配線を通す際ドア等に挟むと断線のおそれがあるため、挟まないように注意してください。
- トラクタのボンネット上に設置すると、電波 が正常に受信できないことがあります。
 必ずキャビン上に取り付けてください。
- GPSレシーバを指定と異なる向きで取り付けると正常な制御が行われない場合があります。



LED(赤)

(3) ナビゲータ

キュウバンキダイをダッシュボード上に取り付 けてください。(吸盤固定)

ナビゲータを設置してください。(はめ込み固定)

- 取扱い上の注意 —

接着面に汚れがあると外れるおそれがあるので、きれいに清掃後に取り付けてください。



- 取扱い上の注意 —

本製品は防水仕様ではありません。GPSレシーバ以外をトラクタキャビン外に設置する場合は、水分や薬液等のかからない場所へ設置してください。

🛕 注 意

- 電源スイッチを入れるときは、作業機の周囲に人がいないことを確認してください。不意に電動モータ が作動し、思わぬ事故を起こす可能性があります。
- ・バッテリからバッテリコードを外すときは⊖側から外し、取り付けるときは⊕側から行ってください。
 もし、逆にすると作業中工具がトラクタに接触したとき火花が生じ、火災事故の原因になります。
- コード;3500(電源コード)をバッテリに取り付けるとき、コントロールボックス・ナビゲータ・GP Sレシーバから切り離したコード;3500単体で行ってください。
 コード;3500がコントロールボックスに接続され、電動シャッタユニットまで接続した状態で行うと、 誤作動する事があります。

- 取扱い上の注意 -

- 2 Pコネクタを接続する際には、必ずコード色(+、-)を確認してください。誤って接続するとコントロールボックス・ナビゲータ・GPSレシーバを破損するおそれがあります。
- ●作業終了後は、必ず電源ボタンを押して電源を切り、長時間使用しないときは、コントロールボックス・ ナビゲータ・GPSレシーバを取り外してください。 バッテリあがりの原因となります。
- ●各スイッチを同時に操作しないでください。
- ●コントロールボックス・ナビゲータは、水濡れ厳禁です。
- ●使用後、また長時間使用しないときはコントロールボックス・ナビゲータ・GPSレシーバを取り外して、 屋内で保管してください。バッテリあがりや結露の原因となります。

以下の配線を行ってください。



コントローラの配線

①コード;3500(電源コード)をバッテリターミナルへ取り付けてください。コード;3500(電源コード)のター
 ミナルは、バッテリターミナルを止めているボルトと共締めにしますので、バッテリから⊕、⊖共にコード
 を外してください。

コードを外すときは、⊖側から外してください。

トラクタのバッテリコードのナットを外し、コード;3500(電源コード)のターミナルを取り付け、ナット を締め付けてください。

バッテリターミナルへ取り付けるときは、⊕側から取り付けてください。(電源コードは、赤色が⊕、黒色 が⊖です。)

②セツゾクコード(電動シャッタ側)の2Pコネクタ(T字)と、3Pコネクタ(丸型)を電動シャッタのコ ネクタにそれぞれ取り付けてください。

カクドセンサ;60°の3Pコネクタ(丸型)の接続は、ツメがツメ穴部に引っかかるまで挿し込んでください。硬いときは、下図の矢印方向にコネクタを少し押しつぶしながら強く挿し込んでください。少量の油脂を塗布するとスムーズにはまり込みます。



- ③セツゾクコード(電動シャッタ側)の2Pコネクタ(T字)とコード; 3500(電源コード)またはトラクタ 内の電源に取り付けてください。
- ④セツゾクコード(電動シャッタ側)の7Pコネクタを、コントロールボックスに取り付けてください。

ナビゲータの配線

①GPSレシーバをGPSハーネスに取り付けてください。

- ②ナビゲータをセツゾクコード(ナビゲータ側)に取り付けてください。
- ③セツゾクコード(ナビゲータ側)の5PコネクタにGPSハーネスを取り付けてください。
- ④セツゾクコード(ナビゲータ側)の4Pコネクタを、ロードセルユニットCPに取り付けてください。
- ⑤ロードセルユニットCPの4Pコネクタを、コントロールボックスに取り付けてください。
- ※ロードセルユニットCPを経由しなくてもセツゾクコード(ナビゲータ側)の4Pコネクタと
 - コントロールボックスは接続可能です。
 - ロードセルユニットCPを取り付け忘れないように注意してください。

6 パワージョイントの装着

▲ 危 険

- カバーのないパワージョイントを使用する と、巻き込まれてケガをする事があります。 カバーのないパワージョイントは、使用しな いでください。
- カバーが損傷したまま使用すると、巻き込ま れてケガをする事があります。
 損傷したらすぐに、取り替えてください。
 使用前には、損傷がないか点検してください。
- トラクタおよび作業機に着脱するとき、第三 者の不注意により、不意にパワージョイント が回転し、ケガをする事があります。 PT Oを切り、トラクタのエンジンをとめて行っ てください。
- カバーのチェーンを取り付けないで使用する と、カバーが回転し、巻き込まれてケガをす る事があります。
 トラクタ側と作業機側のチェーンを回転しない所に連結してください。

▲ 注 意

 最伸時の重なりが 100mm を下回ると、ジョ イントを回転させたとき、破損しケガをする 事があります。
 最縮時の隙間が 25mm よりも小さくなると、 ジョイントの突き上げが起きる事があり、ジョ イントの破損をまねき、ケガをする事があり ます。
 適正な重なり量で使用してください。

1. 長さの確認方法(標準タイプ)

- パワージョイント(アウタ)から、パワージョ イント(インナ)を引き抜いてください。
- (2) 3点リンクを昇降させて、PTO軸とPIC軸 が最も接近する位置で、昇降を停止してください。
- (3) ピン付きヨークのクランプピンを押してPTO 軸と連結し、クランプピンがもとの位置に出る まで押し込んでください。

(4) 安全カバー同士を重ね合わせたとき、安全カバー(アウタ)と安全カバー(インナ)がオーバーラップする位置に目印を付け、さらにオーバーラップした長さに25mmを加えた位置に印を付け、この印からカバー端部までの長さを切断方法の手順に従って切断してください。



- (5) 3 点リンクを昇降させて、PTO軸とPIC軸 が最も離れる位置で、昇降を停止してください。
- (6)安全カバー同士を重ね合わせたとき、パイプの 重なり量が100mm以下の場合は、販売店に連絡 し、長いパワージョイントと交換してください。



2. 切断方法(標準タイプ)

(1) 安全カバーのアウタ・ インナ両方を長い分 だけ切ります。



- (2)切り取った同じ長さ をパイプの先端から 計ります。
- (3) パイプのアウタとインナ両方を金ノコまたはカッターで切断します。
 切断するときは、パイプの中にウエスを詰め、



パイプ内面に切り粉が付着するのを防いでくだ さい。

(4)切り口をヤスリなどでなめらかに仕上げてから パイプをよく清掃し、次にグリースを塗布して、 アウタとインナを組み合わせます。

- 3. 安全カバーの脱着方法(標準タイプ)
- (1) 安全カバーの分解手順
 - 固定ネジを取り外 してください。



④ スライドリングを 取り出してくださ $\langle v \rangle_{0}$



(2) 安全カバーの組立手順

① ヨークのスライド リング溝とパイプ (インナ) にグリー スを塗ってくださ $\langle v \rangle_{0}$



- 3 その上に安全カ バーをはめてくだ さい。
- ④ カバーをしっかり 止まるまで回して ください。









⑤ 固定ネジを締め付けてださい。

4. パワージョイントの連結

(1) 作業機への連結

ピン付ヨークのクランプピンを押して、PIC 軸に連結し、クランプピンがもとの位置に出る まで押し込んでください。

(2) トラクタへの連結 ピン付ヨークのクランプピンを押して、PTO 軸に連結し、クランプピンがもとに位置に出る まで押し込んでください。

▲ 注 意

 ・パワージョイントを接続したら、トラクタP TO側およびPIC側のクランプピンがそれ ぞれ軸の溝に納まっている事を確認してから 使用してください。 それぞれの溝にきちんと納まっていないと、 使用中にパワージョイントが外れ、重大な人 身事故になる事があります。

(3) 安全カバーチェーンの固定

安全カバーのチェーンを固定した所に取り付 け、カバーの回転を防いでください。チェー ンは3点リンクの動きに順応できる余裕を持た せ、また他への引っかかりなどがないように余 分なたるみを取ってください。



2 装置の説明

1 コントロールボックス

1. コントロールボックスの各種名称



①電源ボタン

装置の電源の入切に使用します。

②粒種ボタン

肥料の粒種を設定します。

- ボタンを押すごとに粒→砂・・・と変わります。 LEDが点灯します。
- ※型式登録が「620」(中型スパウトモデル) のときは、粉状の選択は出来ません。

③開度補正ボタン

シャッタ開度を調整します。50%~200%の 間で設定可能な数値に応じて肥料の落下口の面 積が補正されます。

→値を小さくすると、散布量は少なくなります。 →値を大きくすると、散布量は多くなります。

④散布間隔ボタン

作業時の散布間隔(m)を設定します。

⑤散布量ボタン

散布量(kg/10a)を設定します。

⑥速度ボタン

作業時の速度(km/h)を設定します。

- ⑦「+」「-」ボタン
 ③~⑥の設定時に使用します。
 ボタンを長押しすると高速で増減します。
- ⑧シャッタ開閉レバースイッチ 散布開始時には、レバーを上側、 散布停止時には、レバーを下側に操作します。

⑨表示部

設定項目値が数字で表示されます。

⑩設定LED

各種設定ボタンを押すと設定LEDが点灯しま す。

⑪運転状態LED

運転中に緑色LEDが点灯します。 散布停止中に赤色LEDが点灯します。



・取扱い上の注意 -

 ●ボタン操作の際、キュウバンキダイの吸盤部に大きな力が加わらないように、ナビゲータの背面部に手 を添えて操作してください。

ナビゲータでは表示フォントに「Mgen⁺」(http://jikasei.me/font/mgenplus/)を使用しています。 Licensed under SIL Open Font License 1.1 (http://scripts.sil.org/OFL) © 2015 自家製フォント工房、© 2014、2015 Adobe Systems Incorporated、© 2015 M+ FONTS PROJECT

2. 誘導画面の表示について

①目標ライン

誘導する目標ラインです。

②トラクタ位置

トラクタ位置(画面中央)

- ③ 誘導間隔メモリ
- 1メモリ=約2m

④走行ライン工程数

最初の走行ライン(基準線)に対して、1本隣 はL1、2本隣はL2・・・。

(例:画面は基準線を含めて3本目を走行中)

⑤誘導間隔

誘導間隔(cm)が表示されます。

(例:画面は誘導間隔10m)

⑥散布量

ブロードキャスタのコントロールボックス接続 時や施肥マップ読込時には散布量(kg/10a) が表示されます。

(例:画面は散布量30kg/10a)

⑦積載肥料重量

積載している肥料重量(kg)が表示されます。 重量が安定しているときは「○」、走行振動など で重量が安定していないときは「△」または「×」 が表示されます。

(例:画面は積載肥料重量951kgで安定中)

⑧旋回表示

旋回時には、自動で画面が切替り、目標ライン への距離を表示します。 (例:画面は次のラインまで6.5m)

3. ガイドランプについて

目標ライン上では中央緑LEDが点灯します。 50cmずれると中央赤LEDが点灯します。 100cm以上ずれ、かつ目標ラインから外れる 方向に進むと、赤色LED三つが目標ライン方 向にスクロール点灯します。

4. 誘導音について

- ・旋回開始音 旋回時に次の目標ラインの設定距離前でブ ザー音が鳴ります。
- ・直進判定音 目標ライン上に進入するとブザー音が鳴ります。

5. 接続相手の表示について

電源を入れた後の初期画面の右上のアルファベットは、ナビゲータの接続相手を表示しています。 「LP」…コントロールボックス、ロードセルユニット 「P」…コントロールボックスのみ

- 「 (表示なし)」…接続相手がいない
- ※ 接続しているのに表示されない場合は、通信が正常ではありません。配線の確認、電源が入っているか 確認をお願いします。







● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	·開始 LP	_
Map not ○ 197	found G 6	

1. GPSレシーバについて

GPS情報を受信します。 受信状態に応じてランプを点灯、点滅します。 「2-4-3 GPSレシーバ受信状態表示」を参照 してください。



4 受信状態について

1. ナビゲータ受信状態表示

「電源」ボタンを押して電源を入れてください。 表示部で受信状態が確認できます。

①受信機接続待ち

「受信機接続待ち」と表示されます。 ガイドランプ中央が赤に点灯します。

②GPS探索中

「GPS探索中」と表示されます。 ガイドランプ中央が赤に点灯します。

③SBAS探索中

「SBAS探索中」と表示されます。 ガイドランプ中央が橙に点灯します。

④SBAS受信時

開始スタンバイ画面が表示されます。 ガイドランプ中央が緑に点灯します 受信時にブザー音が鳴ります。 受信状態が良好となり、運転を開始できます。

- ※ ③「SBAS探索中」が表示されている状態で も運転を開始できますが、位置精度が著しく低 下します。
- ※ 画面右上のアルファベット「LP」は、本機と接続している場合に表示されます。
- ※ 画面右下のGはGPS衛星の受信数を示します。 (例:画面はGPS衛星を6機受信中)

- 取扱い上の注意 —

●作業開始前にガイドランプが緑以外に点灯している場合、受信状態が不安定になっています。受信状態が不安定なときは作業を開始しないでください。



2. コントロールボックス連動状態表示

- ①「電源」ボタンを押してコントロールボックスの 電源を入れてください。
- ②「速度」ボタンを押して、速度を表示させてくだ さい。速度ランプで連動状態が確認できます。

速度ランプが点滅し、静止状態で「0.0」が表示されている場合はナビゲータと連動しています。



3. GPSレシーバ受信状態表示

GPSレシーバのランプ点灯で受信状態が確認できます。

	電源ランプ	消灯	
①電源接続前	GPSランプ	消灯	
	SBASランプ	消灯	
	電源ランプ	点灯	
②GPS探索中	GPSランプ	点滅	
	SBASランプ	消灯	
	電源ランプ	点灯	
③SBAS探索中	GPSランプ	点灯	
	SBASランプ	点滅	
	電源ランプ	点灯	
④SBAS受信時	GPSランプ	点灯	
	SBASランプ	点灯	



- 取扱い上の注意 —

- バッテリ電源投入からSBAS受信までに5~20分かかります。
 SBASを受信しないと、正しい誘導が行えません。
 必ずSBAS受信を確認の上、作業を開始してください。
- GPS・SBASを受信できないところでは、作業できません。
- ●本製品は受信状態が良好な場合は、誤差が約50cmの精度で動作します。
 開始スタンバイ画面になった後、1~2分待って運転を開始すると、より精度が向上します。

5 肥料流動測定器

ホッパからの肥料の落下量は、肥料の性状により異なり、肥料ごとの落下量の補正が必要です。落下量を補正 する方法の一つに、肥料流動測定値を用いる方法があります。肥料流動測定値は肥料(20kg)の落下時間(秒) を肥料流動測定器(オプション:1488550000)で測定した値です。

本製品は計量機能により肥料流量(肥料流動測定値)を自動補正しますが、設定と実際の肥料の特性が異なる と、散布開始から補正が始まるまでの間、設定散布量と実際の散布量に誤差が生じます。肥料流動測定器を用 いて適切な設定を行うことで、散布開始から、より正確な散布を行うことができます。

※ 肥料形状・水分等により正確に補正できない肥料があります。

肥料流動測定値

肥料種の違いによる落下量の差異を補正する為に、肥料流動測定値を測定します。

計測方法

肥料投入⇒落下時間の計測を2回に分けて行 い、合計落下時間(測定値)を入力してください。 ストップウォッチ等の時間計測機能を用いて落 下時間(秒)を計測します。

① 測定1回目

- ⑧肥料流動測定器の内側から落下口にゴム キャップをはめ込んでください。
- ⑧ 肥料袋の肥料を半分(10kg程度)肥料流 動測定器に投入してください。
- ◎ ゴムキャップを引抜いて時間計測を開始し、 上から覗き込んで落下口から地面がみえるま での時間(秒)を計測してください。
 - ※ 右図を参照し、正しいタイミングで計測 を終了してください。
- ②測定2回目
 - 密 肥料流動測定器の内側から落下口にゴム キャップをはめ込んでください。
 - ⑧ 肥料袋の残りの肥料を、肥料流動測定器に投入してください。
 - ・ゴムキャップを引抜いて時間計測を開始し、 上から覗き込んで落下口から地面がみえるま での時間(秒)を計測してください。
 ※ 右図を参照し、正しいタイミングで計測 を終了してください。

③肥料流動測定値入力

「5-5 作業前設定」に基づき、ナビゲータに
 肥料流動測定値(二回の計測時間の合計)を
 入力してください。









- 取扱い上の注意 -

- ●計測時間の入力単位は、秒です。計測時間が1分30秒では、「90」と入力してください。
- ●必ず20kg(1袋)の肥料を測定してください。計測量が異なると、散布量が正確に補正されません。

※肥料形状・水分等により正確に補正されない肥料があります。
 肥料が多く散布される場合は、過剰散布分の割合を肥料流動測定値から減らして作業してください。
 肥料流動測定値の初期値は「67」で、一般的な化成肥料を想定した値となっています。
 例:肥料流動測定値70で10%多く散布された。⇒70×(100-10)÷100=63に修正

3 運転を始める前の点検

機械を調子よく長持ちさせるため作業前に必ず行いましょう。

1 運転前の点検

トラクタ各部の点検
 トラクタの取扱説明書に基づき、点検を行ってください。

2. 連結部の点検

▲ 注 意

- 点検をするとき、傾斜地や凹凸地または軟弱 地などで行うと、トラクタや作業機が不意に 動き出し、事故を起こす事があります。
 平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 点検をするとき、エンジンをとめずに、あるいは駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 点検をするとき、作業機を接地しないで行うと、思いがけない原因で作業機が降下してケガをする事があります。
 作業機を接地して行ってください。
- (1)3点リンクの連結部点検
 - ロワーリンク・トップリンクのリンチピン・ ベータピンは確実に挿入されているか。
 - ② チェックチェーン張られているか。
 - ③ 不具合が見つかったときは、「1-5 トラクタ への装着」の説明に基づき不具合を解消し てください。
- (2)パワージョイントの点検
 - ピン付きヨークの抜け止めのクランプピン が軸の溝に納まっているか。
 - ② ジョイントカバーのチェーンの取り付けに 余分なたるみはないか。また、適度な余裕 があるか。
 - ③ ジョイントカバーに損傷はないか。
 - ④ 不具合が見つかったときは、「1-6-4 パワージョイントの連結」の説明に基づき不具合を解消してください。

(3) 電装コネクタの点検

- ▲ 警 告 |

- 電気配線に断線や被覆の破れがある場合、漏
 電やショートによる火災事故の原因となります。
 - トラクタの電装コネクタと確実に接続されているか。
 - 電装コードに余分なたるみはないか、また、 適度な余裕があるか。
 - ③ 電装コードに被覆の破れや、挟み込みによ る断線がないか確認してください。
 - ④ 灯火器がトラクタのブレーキ、尾灯、後退灯、 ウィンカーと連動して点灯するか。

3. 作業機本体の点検

「7-1 点検整備一覧表」に基づき始業点検を行っ てください。

2 エンジン始動での点検

▲ 警告

- エンジンを始動するとき、周囲に人がいると、
 思いがけない原因でトラクタや作業機が動き
 出し、事故を起こす事があります。
 周囲に人がいない事を確かめてから行ってく
 ださい。
- エンジンを始動するとき、PTOを切らない で始動すると、急に作業機が駆動され、周囲 にいる人がケガをする事があります。
 PTOを切ってから始動してください。
- 1. トラクタ油圧系統に異常はないか

トラクタ油圧を操作し、3点リンクを上昇し、 作業機を持上げた状態で、降下がなければ異常 ありません。

トラクタ油圧系統などに異常があるときは、トラ クタ販売店にご相談ください。

給油箇所一覧表 3

○ 給油、塗布するオイルは清浄なものを使用してください。

○ グリースを給脂する場合、適量とは古いグリースが排出され、新しいグリースが出るまでです。



No.	給油場所	箇所	潤滑油の種類	給油時間	給油量	備考
1	ロッドエンド可動部	1	オイル	使用ごと	適量	注油
2	ホッパ反転アーム回転部;L・R	各1	11	"	"	"
3	アーム ; 2 両側のベアリング部	2	※ 集中給油グリース 4 種;2号	"	"	給脂
4	フライホイール、アーム ; 2 連結部	1	11	//	"	//
5	ハウジング	1	11	"	"	"
6	パワージョイント	2	11	"	"	11

※1 IDEMITSU「ダフニー エポネックスSR No.2」または相当品をお使いください。

4 初期設定 1 シャッタ部のゼロ点設定

●シャッタ部のゼロ点設定をしないと、肥料の散布量が大きく異なる可能性があります。また、シャッタ が正常に開閉しないことがあります。必ず作業前にゼロ点設定を行ってください。



- ①「粒種」と「開度補正」ボタンを同時に押しながら「電源」ボタンを押し、「電源」ボタンを先に離した後、「粒種」と「開度補正」ボタンを離して電源を入れてください。
- ②レバースイッチを「開始」側に倒し、シャッタを少し開いてください。

「+」ボタンを押しながら操作すると、早く開きます。

全ての落下口が完全に塞がる瞬間にレバースイッチから手を離して止めてください。

- ※ 落下口が閉じきらない場合は、シャッタとレバーのリンク長さを調整してください。
- ※ 落下口が見えるか見えないか(早め)の位置で設定することを心掛けてください。 肥料が漏れないようにゼロ点設定位置よりも多めに閉まるようなプログラムとなっています。



- ③「速度」ボタンと「散布量」ボタンを同時に押してください。速度ランプと散布量ランプが点灯したら終了です。 ※ 表示されている数値が「96~196」の範囲で速度ランプと散布量ランプが点灯します。
 - その範囲で落下口が閉じきらない場合は、シャッタとレバーのリンク長さを調整してください。
- ④「電源」ボタンを押して電源を切ってください。
 - ※ ゼロ点設定は、ご購入後一度登録すると記憶されますので2回目以降の作業時に、再登録する必要は ありません。

2 ロードセル部の設定

- 取扱い上の注意 -

- ロードセル部のゼロ点設定をしないと、計量機能が正しく動作せず、散布量が大きく異なる可能性があります。必ず作業前にゼロ点設定を行ってください。
- ●ゼロ点は作業中にズレる可能性があります。必ず作業前にゼロ点設定を行ってください。
 ※大きな段差(馬入れ等)を乗り越えた際に最大で20kg 程度の誤差が生じる可能性があります。



1. ゼロ点設定

- ①「電源」ボタンを押し、ナビゲータの電源を入れてください。
- ②「メニュー」ボタンを押すと重量設定(ゼロ点設定)画 面に切り替わります。
- ③「開始」ボタンを押すとゼロ点設定中画面に切り替わります。
- ④機体に荷重が掛かっていないか、機体が水平になっているかを確認し、「開始」ボタンを押してゼロ点設定を実行してください。
 - 実行するとブザーが鳴り、重量設定(ゼロ点設定)画 面に戻ります。
- ※ゼロ点設定時は、スタンドは必ず外して、別途保管 してください。
- ※機体が傾いていると重量が正確に表示されないこと があるので注意してください。
- ⑤「終了」ボタンを押して重量設定を終了してください。
- ⑥「電源」ボタンを押し、ナビゲータの電源を切ってください。
- ※通常のゼロ点設定でも一定の精度で積載肥料重量を 測定することができますが機械の個体差などにより、 測定誤差が出る場合があります。
 - より精度の高い計量機能をお求めの場合は次ページの 「2.重量補正設定」を参照し、補正情報を入力し てください。





2. 重量補正設定

本製品の計量機能は、①ゼロ点設定、②重量補正設定、の2点から計算しています。ゼロ点設定を行って も表示される重量の誤差が大きい場合や、用意した肥料などの重量を基準にしたい場合は以下の手順にし たがって設定を行ってください。

- ①別機材(市販の計量器等)を準備し、肥料の重量を測定してください。
- ※重量補正の精度は設定値に依存するので、別機材で 測定した肥料の重量精度にご注意ください。
- ②「電源」ボタンを押し、ナビゲータの電源を入れてくだ さい。
- ③機体に荷重が掛かっていないか、機体が水平になっているかを確認し、ホッパに肥料を投入してください。
- ④「メニュー」ボタンを押すと重量設定(ゼロ点設定)画 面に切り替わります。
- ⑤「+」ボタンを押すと重量設定(重量補正の設定)画 面に切り替わります。
- ⑥「開始」ボタンを押すと積載重量設定中画面に切り替わります。

左側に現在のロードセル検出値(センサ値)が表示されます。

右側に別機材で測定した重量(基準重量)を入力してください。

入力は「+、-」ボタンで行ってください。

(例:画面ではセンサ値 3995、基準重量 800kg)

- ⑦「開始」ボタンを押して重量補正を実行してください。 実行するとブザーが鳴り、重量設定(ゼロ点設定)画 面に戻ります。
- ⑧「終了」ボタンを押して重量設定を終了してください。
- ⑨開始スタンバイ画面の重量表示が変更されていること を確認してください。
 - (例:画面では 810kg から 800kg に変更)
- ⑩「電源」ボタンを押し、ナビゲータの電源を切ってください。

<i></i>
● ● ● ● [開始]で開始 LP <-MAP
$\bigcirc \bigcirc $
┃ ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●
主里政定 (ガロ占認定)
\bigcirc
重量設定
(重量補正の設定)
「開始1>准む
$\bigcirc \bigcirc $
3995s->(800)kg
[開始]>実行
[終了]>キャンセル
[開始]で開始 LP
<-MAP
ほ場外

 \bigcirc 800

G 6

3. 重量補正情報の初期化設定

ー度設定した重量補正を出荷状態に戻したい場合(別 機材で測定した肥料重量精度が低かったり、間違った 補正情報を入力してしまった場合など)に使用します。

- ①「電源」ボタンを押し、ナビゲータの電源を入れてください。
- ②「メニュー」ボタンを押すと重量設定(ゼロ点設定)画 面に切り替わります。
- ③「+」ボタンを2回押すと重量設定(重量補正初期化) 画面に切り替わります。
- ④「開始」ボタンを押すと重量補正初期化に切り替わります。
- ⑤ 再度「開始」ボタンを押すと重量補正初期化が実行されます。

実行するとブザーが鳴り、重量設定(ゼロ点設定)画 面に戻ります。

- ⑥「終了」ボタンを押して重量設定を終了してください。
- ⑦「電源」ボタンを押し、ナビゲータの電源を切ってください。

4. 重量設定中の誤操作を取消す

ゼロ点設定、重量補正設定の操作時に、誤って設定し てしまった場合、ナビゲータの電源を切る前であれば 各設定を1つ前の状態に戻すことができます。

- ①「電源」ボタンを押し、ナビゲータの電源を入れてください。
- ②「メニュー」ボタンを押すと重量設定(ゼロ点設定)画 面に切り替わります。
- ③「+」ボタンを3回押すと重量設定(前回設定に戻す) 画面に切り替わります。
- ④「開始」ボタンを押すと前回設定した項目(ゼロ点設定、 積載重量補正、補正値の初期化のいずれか)に切り替 わります。
- ⑤再度「開始」ボタンを押すと取り消しが実行されます。 実行するとブザーが鳴り、重量設定(ゼロ点設定)画 面に戻ります。
- ⑥「終了」ボタンを押して重量設定を終了してください。
- ⑦「電源」ボタンを押し、ナビゲータの電源を切ってください。
- ※ナビゲータの電源を切ると設定値が記録され、もとに 戻すことはできないので注意してください。
- ※特にゼロ点設定は肥料を積載した状態で行うと不具 合が起こる可能性がありますので、できるだけ肥料無 積載状態で行ってください。





5 作業の仕方

1 本製品の使用目的

本製品は粒状肥料(高度化成など)、砂状肥料(ようりんなど)、種子の散布に使用します。 他の用途には使用しないでください。

2 作業のための調整

🛕 注 意

- 調整をするとき、傾斜地や凹凸地または軟弱 地などで行うと、トラクタや作業機が不意に 動き出し、事故を起こす事があります。 平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 調整をするとき、エンジンをとめずに、あるいは駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 調整をするとき、作業機を接地しないで行うと、思いがけない原因で作業機が降下してケガをする事があります。
 作業機を接地して行ってください。

1. PTO回転速度

作業時における、常用PTO回転速度は、 **450 ~ 500rpm** です。

▲ 警告

作業機指定のPTO回転速度を超えて作業すると、機械の破損により、ケガをする事があります。
 指定回転速度を守ってください。

- 取扱い上の注意 —

 散布の際、シャッタを閉じたままPTOを回 さないでください。 2. 地上高と姿勢の調整

粒状肥料、砂状肥料の散布は落下口(スパウト 先端部)までの高さが60~70cmになるように トラクタ油圧でセットしてください。

3. 最大積載重量

本製品の最大積載量は1200kgです。 ※積載容量は肥料の性状により変わります。

- 取扱い上の注意 —
- 指定された積載量以上の積載はしないでくだ さい。

作業機破損の原因になることがあります。

- 積載物はほぼ平坦になるように積載してくだ さい。
- 作業機が水平になっていないと正確な積載肥料重量を計測できない可能性があります。
 機体が水平になっているか確認してください。

3 作業の流れ

※詳細は各項目を参照してください。



以下の機能を使用できます。

GPS車速連動シャッタ開閉	0				
シャッタ開度自動補正	0				
後進時の自動散布停止	0				
積載肥料重量の表示	0				
隣接作業	0				
外周作業後内工程作業	0				
内工程作業時の枕地シャットオフ	0				
ブレークリターンシステム	0				
作業途中での肥料追加	0				
施肥マップの使用	0				
作業ログの作成	0				

5 作業前設定(コントロールボックス、ナビゲータ)

- 取扱い上の注意 -

- ●「4 初期設定」を参照し、各種初期設定を行ってから散布作業を開始してください。設定を行わないと、肥料の散布量が大きく異なったり、シャッタが正常に開閉しないことがあります。
- GPS信号が正常に受信されていることを確認してください。受信状態が悪いと誤動作を起こします。
- ●使用するUSBメモリは荷重のかかりにくいもの(軽量で小型なもの、ストラップ等のついていないもの) を用いてください。荷重がかかると、走行中の振動でUSBメモリが抜ける可能性があります。
- ●本製品で用いることができるUSBメモリは、USB2.0もしくはUSB3.0、最大容量は32GByteです。
 ただし、USB3.0を用いた場合でも通信速度はUSB2.0と同等です。
- ●本製品で用いることのできるUSBメモリのファイルシステムはFAT32です。
 FAT32以外のUSBメモリを使用した場合、意図しない動作をする可能性があります。
- ●本製品には、暗号化機能を搭載したUSBメモリを使用しないでください。読み込み・書き込みができない可能性があります。
- USBメモリに施肥マップ以外のファイルが大量に入っていた場合、読込動作の遅延を引き起こす場合 があります。不要なファイルを削除してから作業を行ってください。
- USBメモリには、まれに本製品と相性が悪いものがあります。そのようなUSBを使用した場合、作業 ログ等が記録されない、施肥マップを読み込みできない等の可能性があります。そのような症状が現れ た場合は、別のUSBメモリを使用してください。

1. コントロールボックスの作業前設定



- (1)「電源」ボタンを押して、電源を入れてください。
- (2)「粒種」ボタンを押して、粒種を選定してください。
 「粒種」ボタンを押すごとに、粒⇒砂と切替ります。粉を選択することはできません。
 ※他型式と共通部品のため、「粉」LED が付いています。
- (3)「開度補正」ボタンが付いていますが、ナビゲータ側で設定しますので使用しません。 ※他型式と共通部品のため、「開度補正」ボタンが付いています。
- ※コントロールボックス、ナビゲータ、ロードセルユニットの通信が正常なとき、LEDが点滅します。
- (4)「散布間隔」ボタンを押して、散布時の走行間隔を入力してください。 値の入力は「+、-」ボタンで行ってください。(設定範囲 3~30m)
 - ※作業時の走行間隔は、有効散布幅に合わせてください。
 - ※設定は、肥料の性状やPTO回転数に応じた有効散布幅に合わせて、実際の散布幅を超えない値にしてく ださい。
 - ※散布間隔の設定を変更しても機械側の実際の散布幅が変化するわけではありません。
 - ※出荷状態では下表のように設定されています。

	粒状	10m
砂状 5.5m	砂状	5.5m

(5)「散布量」ボタンを押して、散布量(kg /10a)を入力してください。 値の入力は「+、-」ボタンで行ってください。(設定範囲1~620kg/10a)
※マップを読み込んだ場合には、マップ側の散布量を優先して使用します。
※値を大きく設定しても、使用するブロードキャスタの性能を超える散布量で散布することはできません。
※出荷状態では、30kg /10a に設定されています。

(6)「速度」ボタンが付いていますが、ナビゲータ側と連動しますので使用しません。 ※車速連動中はLEDが点滅します。
2. ナビゲータのメニュー設定

- (1)施肥マップを読込む場合、もしくはログの記録を行う 場合はUSBメモリを差し込んでください。 USBポートはナビゲータの裏側に設置してあります。
- (2) コントロールボックスとナビゲータ、それぞれの「電源」ボタンを押して、電源を入れてください。施肥マップが入ったUSBメモリを差し込んである場合は、自動で施肥マップ読込が行われます。その後、開始スタンバイ画面が表示されます。
 - ・「ほ場外」と表示され、フィールドランプが赤に点 灯している場合は、現在位置がほ場外であることを 示しています。
 - ・ ほ場名が表示され、フィールドランプが緑に点灯している場合は、現在位置が表示されたほ場内であることを示しています。
 - (例:画面ではほ場「Field 5」に入った状態)
- (3)施肥マップの詳細情報を確認する場合は「-」ボタン を押してください。施肥マップの情報が表示されます。
 ① ほ場 No.
 - (例:画面では5番目のほ場)
 - ② 可変施肥領域個数情報
 - (例:画面では可変施肥領域が3ヶ所)
 - ③ ほ場名称(例:画面ではほ場名「Field 5」)
 - ④ ほ場サイズ(例:画面ではほ場サイズ 5000m2)
 - ⑤ 理論散布量
 (例:画面ではほ場内に散布する理論的な肥料の
 総重量が107.1kg)
- (4) コントロールボックスの接続状態を確認してください。

コントロールボックスの「速度」ボタンを押してくだ さい。

速度ランプが<u>点滅</u>し、静止状態で「0.0」が表示されている場合はナビゲータと連動しています。

※ナビゲータと連動しない場合は、GPS信号が受信されていません。

「8-3 不調処置一覧表(ナビゲータ)」の「ナビゲー タの誘導が始まらない」を参照してください。

- (5) コントロールボックスの「散布間隔」ボタンを押して、 散布間隔を設定してください。値の入力は「+」「-」 ボタンで行ってください。
 - ※ナビゲータとコントロールボックスが連動していると きは、ナビゲータの誘導間隔設定は表示されません。







(6) ナビゲータの「メニュー」ボタンを押して、各種設定を行ってください。

「メニュー」ボタンを押すごとに下記のように設定項目が切替ります。各設定項目では「+、-」ボタンで 設定、入力してください。

※装置が正しく接続されていないと異なる項目が表示される場合があります。



- ・枕地シャットオフの設定 外周散布後、内工程作業中に枕地(一度散布した場所)へ進入した場合、自動でシャッタを閉じます。
 【有効】⇔【無効】
 【無効】に設定すると枕地の手前でシャッタは閉じません。
 ※出荷状態では、【有効】に設定されています。
 ※この機能は外周散布後に有効となります。
- ●重量設定 積載肥料重量を測定する機能の設定を行います。
 ⇒「4-2 ロードセル部の設定」参照
- ・肥料流動測定値の設定(シャッタ開度の調整)
 コントロールボックスの開度補正もしくは肥料流動測
 定値から、シャッタ開度を調整します。
 設定範囲【使用しない】⇔【1】sec ~【200】sec
 1 sec 刻みで設定が可能です。
 - □【使用しない】 コントロールボックスの開度補正でシャッタ開度を 調整します。コントロールボックスの取扱説明書を 参照してください。
 - □【1】sec~【200】sec 肥料流動測定値を入力してください。肥料流動測定 値の計測方法は「2-5 肥料流動測定器」を参照して ください。

※出荷状態では【68】に設定されています。

肥料流動測定値自動調整の設定

(肥料流動測定値を【使用しない】としている場合は表示されません。)

【する】⇔【しない】

【する】に設定すると、測定した積載肥料重量をも とに、リアルタイムで肥料流動測定値(シャッタ開度) を調整します。

【しない】に設定すると、肥料流動測定値は一定の まま変化しません。

※出荷状態では、【する】に設定されています。

〇 枕 (有	────────────────────────────────────	
[X]	[1-]>次の項目	



$\left[\right]$	\bigcirc	\bigcirc	0	
肥	料流動	訪測	l定値を	
運	転中(こ自	動調整	
(する)		
L [X	<[-נ]	次(の項目	

- - □【表示しない】

次の作業開始時には設定した肥料流動測定値に戻り ます。

 \Box [1] sec \sim [9] sec

次のほ場に入った際に自動補正後の肥料流動測定 値を使用するかを選択する画面が表示されます。 (現在の値と補正後の値が設定値以上のときに表示) ※出荷状態では【4】sec に設定されています。 ※設定画面は「流動値更新画面」と表示されていま す。

- アンテナ位置設定
 アンテナ取付位置とホッパプレート中心位置の水平
 距離を設定してください。
 設定範囲【50】cm~【2000】cm
 50 cm刻みで設定が可能です。
 ※出荷状態では【250】cmに設定されています。
- 旋回開始音の設定
 旋回時、目標ラインの手前でブザー音が鳴ります。
 設定範囲【100】cm~【1000】cm 手前
 10 cm刻みで設定が可能です。
 ※出荷状態では、【500】cm 手前に設定されています。
- ログファイル形式の設定
 ログファイルの形式を設定してください。
 【KML】 ⇔【CSV】
 □KML
 KML形式でログファイルを作成します。
 □CSV
 CSV形式でログファイルを作成します。
 ※出荷状態では【KML】に設定されています。
 ※ログファイルはUSBメモリ内に作成されます。
 ログファイルを作成する際には必ずUSBメモリ
- (7) 再度「メニュー」ボタンを押して、メニューを終了し てください。開始スタンバイ画面に戻ります。

を取り付けてください。

- (8) ほ場へ移動してください。
 施肥マップに登録があるほ場が左右前方にある場合
 は矢印が表示されます。
 (例:画像は左前方に登録ほ場がある場合)
- ※ 矢印はトラクタが前進している場合のみ正常に表示さ れます。





- (9) 作業開始位置へ移動してください。
 以下の通りにガイドランプが点灯し、GPSアンテナがどの区画にあるのか示します。参考にしながら開始位置へ移動してください。(右図参照)
 A区.ガイドランプ右、左が点灯します。
 B区.ガイドランプ左のみ点灯します。
- ※ ガイドランプの色はGPS受信状態を示します。 「2-4-1 ナビゲータ受信状態表示」を参照してください。



3. 外周均等割有効設定

メニュー操作で経路誘導スタイルを【外周均等割有効】にして外周散布をすると、内工程散布時に誘導間 隔の自動調整を行い経路誘導します。詳細設定画面で、「誘導間幅の下限値(%)」を設定することで、誘 導間隔が狭くなりすぎることを防止しつつ、適した間隔で誘導を行うことが可能です。

・誘導間隔の下限値の設定

< 10m

誘導間隔の下限値(%)を設定することで、誘導間隔が 狭くなりすぎることを防止しつつ、適した間隔で誘導を 行うことが可能です。例えば、散布間隔設定値が10m、 誘導間隔の下限値設定が80%の場合は、8m以上の間 隔で内工程を均等割りして誘導を行います。 設定範囲【50】%~【100】% 10%刻みで設定が可能です。 ※出荷状態では、【80】%に設定されています。

残り全幅

外周ライン



散布間隔:10m 誘導幅の下限値:80% 残り全幅22mの場合

10m

4. 外周均等割無効設定

メニュー操作で経路誘導スタイルを【外周均等割無効】にして外周散布をすると、内工程散布時に散布間 隔の自動調整を行わず、任意に設定した散布間隔で経路誘導されます。 ほ場幅が設定した散布間隔の整数倍になっていない場合、最後に「余り部分」が生じます。 詳細設定画面で「誘導間隔の下限値(%)」を設定することで誘導が変わります。

・誘導間隔の下限値の設定

「余り部分」が下限値以上の場合、「余り部分」を有効 な経路としてその中心に誘導します。 下限値未満の場合、「余り部分」を無効とし、その部 分を誘導せずに終了します。その場合は、ナビゲータ の電源をオフにし、散布間隔を「余り部分」に応じて 再設定し、有効散布幅ができるだけ散布間隔に近くな るようPTOを調整し、目視で「余り部分」の作業を行っ てください。

設定範囲【50】%~【100】%

10%刻みで設定が可能です。

※散布間隔:10m

誘導幅の下限値:80%

※出荷状態では、【80】%に設定されています。





「余り部分」が生じるほ場の例 ※散布間隔:10m 誘導幅の下限値:80%

- 取扱い上の注意 -

- 散布作業を始める前に必ず、初期設定を行ってください。登録を行わないと、肥料の散布量が大きく異なることや、シャッタがきちんと開閉しないことがあります。
- 電動シャッタレバーは過負荷による電動モータ保護のための保護装置を内蔵しています。ホッパプレートとディスクプレートの間に肥料がたまり、電動モータに過負荷がかかると開度表示が「999」の点滅をして操作不能になります。電源を切り、各作業機の「作業後の手入れ」に基づき清掃を行ってください。
 再び電源を入れると使用できる状態になります。また他の原因においても保護装置が作動しますので「8 不調処置一覧表」をご確認ください。
- GPS信号が受信できない場合は、経路誘導・車速連動機能を使用することができません。 思わぬ動作をする可能性があるため、ナビゲータ・GPSレシーバを使用しないでください。
- ●作業開始時は、かならずコントロールボックスのレバースイッチで開始操作を行ってください。ナビゲー タの「開始」ボタン操作では、散布が開始されません。
- ●後進時は旋回を行わないでください。正しく誘導が行われなくなる可能性があります。
- ●施肥マップ使用時には、かならずほ場内で散布作業を開始してください。ほ場外で作業を開始した場合、 施肥マップに応じた可変施肥は行われません。
- ●施肥マップおよびログ作成機能を使用する場合は、かならずUSBメモリを取り付けてください。US
 Bメモリを取り付けずに作業を開始すると、施肥マップおよびログ作成機能は使用できません。
- ログ作成機能を使用する場合、作業終了時にかならずナビゲータの誘導もしくはフリーランを終了してください。終了以前にナビゲータの電源が切れた場合、ログファイルは作成されません。
- USBメモリを抜き差しする際は、かならずナビゲータの電源を切ってください。施肥マップおよびロ グ作成機能が正常に動作しなくなる可能性があります。
- ●使用後、また長時間使用しないときはコントロールボックス・ナビゲータ・GPSレシーバを取り外して、 屋内で保管してください。バッテリあがりや結露の原因となります。

▲ 警告

- 運転中または回転中、スパウト揺動部に手を 入れると叩かれ、ケガをする事があります。
 周囲に人を近づけないでください。
- 作業機指定のPTO回転速度を超えて作業すると、機械の破損により、ケガをする事があります。

指定回転速度を守ってください。

- ハウス内などの室内作業をするとき、排気ガスにより中毒になる事があります。
 窓、戸などを開け、十分に換気をしてください。
- 生石灰は水に触れると激しく反応し発熱します。火傷や火災の原因になる事があります。
 危険ですので水滴等の水濡れに十分注意してください。

▲ 注 意

- 散布作業中飛散物が当たりケガをする事があります。周囲に人を近づけないでください。
- 機械の調整や、付着物の除去などを行うとき、 PTOおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が 駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。 PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可 動部がとまっていることを確かめて行ってく ださい。

1. 肥料の投入

移動中の振動による固まりを防ぐため、肥料の 投入はほ場に着いてから行ってください。 作業前にホッパ容量と散布量を考慮し、あらか じめほ場各所に肥料を置いておくと能率の良い 作業ができます。

「4-2-2 重量補正設定」を行うため、やむをえ ずほ場外で肥料を積載する場合は、できるだけ ほ場に近い平坦な場所で作業を行ってください。

2. 種子の散布方法

牧草種子および細粒種子の散播の際には、種子 と同比重のもの(例、オガクズ)を増量剤とし て混合してください。 増量剤を使用せず微量散布しますと散布の均一 性が悪くなります。

3. 散布方法

は場における散布方法について代表例を3通り あげますので、用途に応じて参考にしてください。 (1)1回散布

有効散布幅をトラクタの走行間隔で散布します。 粒状肥料散布の場合、散布区画が分かりにくい のでトラクタ車輪後を目安に散布を行います。 ※1回散布作業(高能率の作業方法)



(2)2回散布

1回目の散布は上記方法で行い、2回目の作業 は1回目散布の中間にトラクタ中心がくるよう に散布します。

10 a 当たりの散布量を1/2にセットして2回 散布しますので、1回散布よりも均一性は向上 されますが、能率は低下します。

※ 2回散布作業



(3)十文字散布

有効散布幅で縦、横、十文字に散布する方法で、 上記の2回散布よりも均一性が向上されます。 ※ 十文字散布作業



4. 隣接散布

GPS車速信号に連動してシャッタを自動調整するため、トラクタの遅速に関わらず設定した散布量の肥料を散布できます。施肥マップ読込時には施肥マップに応じた可変施肥になります。

1本目の走行ラインを記憶し、設定した散布間隔だけ離れたラインへ誘導します。基準線記憶後は後進時 に自動でシャッタを閉じて散布を停止します。



① コントロールボックスのレバースイッチを「開始」側に倒し、走行を開始してください。

走行を開始しGPS速度信号を受けると、シャッタが開きます。

- ②枕地で旋回してください。自動で基準線が設定され、次の目標ラインへの距離が表示されます。
- ③目標ラインに向かって旋回してください。

目標ラインの手前でブザー音が鳴ります。

④誘導画面に従って直進走行してください。

目標ラインがトラクタ位置から外れている場合は、トラクタのハンドルを目標ライン側に切ると近づきます。 ⑤散布作業を終了するときは、以下のいずれかにより誘導を終了してください。

- ・ナビゲータの「終了」ボタンを押して手動終了(ブロードキャスタの散布作業も連動して自動停止します。)
 ・基準線方向に旋回して自動終了(ブロードキャスタの散布作業も連動して自動停止します。)
- ・コントロールボックスのレバースイッチを「停止」側に倒し、シャッタが閉じた状態でコントロールボックスの「電源」ボタンを押してブロードキャスタの運転を終了。

※隣接散布時には、枕地で自動でシャッタは閉じません。

レバースイッチで開閉操作を行ってください。

※コントロールボックスのレバースイッチを「停止」側に倒し散布を停止しても、ナビゲータの誘導は終了 しません。

5. 外周散布後内工程散布

GPS車速信号に連動してシャッタを自動調整するため、トラクタの遅速に関わらず設定した散布量の肥料を散布できます。施肥マップ読込時には施肥マップに応じた可変施肥になります。

1本目の走行ラインを記憶し、外周散布後に内工程の目標ラインへ誘導します。また、内工程散布時、枕 地シャットオフが有効の場合には外周にさしかかると自動で散布が停止します。基準線記憶後は後進時に 自動でシャッタが閉じて散布が停止します。

a. 外周散布時



- ① <u>コントロールボックスのレバースイッチ</u>を「開始」側に倒し、走行を開始してください。
- 走行を開始しGPS速度信号を受けると、シャッタが開きます。
- ②枕地で旋回してください。自動で基準線が設定され、次の目標ラインへの距離が表示されます。
- ③旋回開始音が鳴りますが、直進走行してください。
- ④オーバーラン距離が表示されますが、直進走行し、枕地で旋回してください。
- ⑤基準線と平行に誘導表示します。直進走行し、枕地で旋回してください。
 - ※ 基準線から500m以内で誘導可能です。500mを越えると誘導できませんので、隣接散布で作業してください。
- ⑥基準線の1本隣への距離を表示します。
- ⑦目標ラインに向かって旋回してください。 目標ラインの手前でブザー音が鳴ります。



⑧内工程へ誘導されます。

誘導画面に従って直進走行してください。

- ⑨枕地で旋回した後、ブザー音を目安に次のラインへ旋回してください。 自動でシャッタが閉じ、散布を停止します。
- ⑪基準線と平行に誘導表示します。

自動でシャッタが開き、散布を再開します。

①散布作業の最終工程ラインでは「LAST」と表示されます。

⑫作業を終了するときは、以下のいずれかにより終了してください。

・ナビゲータの「終了」ボタンを押して手動終了(ブロードキャスタの散布作業も連動して自動停止します。)

- ・基準線方向に旋回して自動終了(ブロードキャスタの散布作業も連動して自動停止します。)
- ・「LAST」表示中に旋回して自動終了
- ・コントロールボックスのレバースイッチを「停止」側に倒し、シャッタが閉じた状態でコントロールボックスの「電源」ボタンを押してブロードキャスタの運転を終了。
- ※ コントロールボックスのレバースイッチを「停止」側に倒し散布を停止しても、ナビゲータの誘導は終 了しません。

- 取扱い上の注意

● ほ場形状によっては、外周散布後内工程散布が行えない場合があります。「5-8-3 外周作業後内工程作 業可能なほ場形状」を参照してください。 6. フリーラン

経路誘導スタイルを【フリーラン】に設定すると、誘導機能なしで散布量を確認しながら散布作業を行う ことが可能です。施肥マップを読込んでいる場合は、可変施肥を行うことができます。

①「開始」ボタンを押し、走行を開始してください。

- ②散布作業を行ってください。 誘導は行われません。
- ③作業を終了するときは、以下のいずれかにより 終了してください。



- ・ナビゲータの「終了」ボタンを押して終了(ブロードキャスタの散布作業も連動して自動停止します。)
- ・コントロールボックスのレバースイッチを「停止」側に倒し、シャッタが閉じた状態でコントロールボックスの「電源」ボタンを押してブロードキャスタの運転を終了。

※Nは緯度、Eは経度、Sは散布量を示します。

- ※コントロールボックスのレバースイッチを「停止」側に倒し散布を停止しても、フリーランは終了しません。
 ※フリーランでは、枕地シャットオフ機能は働きません。隣接散布の経路で作業するか、散布を停止する場合はコントロールボックスのスイッチによる停止操作を行ってください(散布を再開する際も、スイッチによる開始操作が必要です)。
- ※フリーランでは、後進時の自動散布停止機能は働きません。後進時に散布を停止する場合は、コントロー ルボックスのスイッチによる停止操作を行ってください(前進時に散布を再開する際も、スイッチによる開 始操作が必要です)。

7. シャッタ18段階モード起動

ナビゲータを使わずに、手動ユニットと同じ18段階にシャッタを開閉するモードです。

- トラクタ車速に連動せずに、開度固定で散布作業を行うことができます。
- ・メンテナンスのシャッタ開閉に利用することができます。
- (1) ナビゲータ取り外し

ナビゲータをコントロールボックスから取り外してください。

(2) シャッタ18段階モード起動

「電源」ボタンを押して電源を入れてください。

「粒種」ボタンを<u>3秒以上長押し</u>してください。粒種LED(「粒」「砂」「粉」)が全て点灯したら、「粒種」 ボタンを離してください。



(3)開度の設定

「+」「-」ボタンを押して、開度を設定してください。 「0.5~18.0」(全開)まで設定できます。 ※ 出荷状態では18.0 (全開) に設定されています。



(4) シャッタ開閉

レバースイッチを「開始」側に倒すと、シャッタが開きます。 シャッタを閉じるときは、レバースイッチを「停止」側に倒してください。



(5) シャッタ18段階モード終了

「粒種」ボタンを3秒以上長押ししてください。粒種LED(「粒」「砂」「粉」)のいずれか1つが点灯したら、 「粒種」ボタンを離してください。モードが終了しました。 「電源」ボタンを押して電源を切ってください。



- 取扱い上の注意 —

●「電源」ボタンを押して電源を切っても、シャッタ18段階モードは終了しません。「粒種」ボタンを3 秒以上長押しして、モードを終了してください。

7 応用	機能
------	----

1. ブレークリターンシステム

直進走行の途中で作業を中断しほ場外に出た後でも、中断位置まで戻り、作業を再開出来ます。



① ブレークリターンシステムの起動

ナビゲータの「開始」ボタンを押してください。 3つのガイドランプが緑色に点灯します。(作業再開場所を記憶します)

2移動

作業再開場所から離れると3つのランプが赤色になります。 その後、誘導中のラインから外れても、誘導は次工程ラインに移りません。作業再開ラインとして、その まま保持されます。

③誘導再開場所への誘導

ナビゲータの距離表示に従って、誘導再開場所へ走行してください。誘導再開場所は、作業再開ラインの 始点です。

④作業再開場所への誘導

誘導再開場所で旋回し、作業再開ラインに進入してください。
直進表示になり、誘導が再開されます。
作業再開ラインを走行し、作業再開場所に向かって走行してください。
再開場所の半径2m以内に達するとブザーが鳴り、散布が自動で再開されます。
※ 誘導再開場所の範囲は、作業再開ラインの始点を中心とした直径誘導間隔分の円です。

※1本目の基準線を記憶中は、ブレークリターンシステムは使用できません。 ※外周作業中には、ブレークリターンシステムは使用できません。 ※フリーラン中には、ブレークリターンシステムは使用できません。

- 取扱い上の注意 -

ブレークリターンシステムで作業開始地点に向かう際はかならず誘導開始場所で作業再開ラインへ進入してください。誘導再開場所を通らなかった場合、正常に誘導されない可能性があります。

2. 肥料の追加

作業中に肥料を追加することができます。

- ①作業中に<u>3秒以上</u>停車後に、肥料の投入を検出すると 肥料追加画面となり、肥料の追加操作メッセージが最 上段に表示されます。
- ※肥料の投入は、画面右下に「停止中」と表示されて から行ってください。
- ※ブレークリターンシステム使用中も同様です。
- ②振動や一時的な荷重(人によるホッパのぞきこみ等) で肥料の投入を検出してしまった場合は、荷重が元に 戻ると表示が消えます。
- ③肥料投入終了後、画面左下の重量表示マークが〇にな り、値が安定したら「+」ボタンを押して肥料追加画 面を終了してください。
- ※基準線作成中(1本目の作業経路)には肥料を追加 できませんので、作業開始前、もしくは基準線作成 後(2本目の作業経路)に肥料の追加を行ってくださ い。

※10kg以上の荷重増で肥料投入が検出されます。

交互に表示



8 作業時の注意

1. 砂状散布

砂状肥料(例:ようりん)等の流動性の高い肥料では、シャッタ開度を絞って作業するため十分な肥料落 下流量を得られず、自動補正機能が正常に動作しないことがあります。 砂状肥料散布時には散布量を多めに設定する、車速を速くするなど、散布状況を見ながら 調整してください。

※散布量の誤差は一定の範囲に収まりますが、作業中の散布量が不安定になる場合があります

※特に「例」以下の散布量だと不安定になりやすいので注意してください。

例:散布間隔 5.5m、作業速度 6km/h、散布量 40kg/10a

2. 作業可能範囲

本製品では、散布開始点から3kmまでの作業が可能です。 3km以上離れると動作が不安定となり、場合によってはシステムが停止します。

3. 外周作業後内工程作業可能なほ場形状

- ほ場条件
- (1)辺①は直線です。

作業開始点と旋回開始点から基準線を記憶します。

- (2)辺①と辺②のなす角度は90°±30°の範囲(60°~120°)です。
 辺②は直線または曲線です。
- (3)辺③は辺①と平行な直線です。辺①から500m以内で作業可能です。
- (4)辺④は直線または曲線です。



ほ場形状例

1)長方形ほ場

2) 台形ほ場





3) 変形ほ場



4) 三角形ほ場



※三角形ほ場では、〇印部は切り返し作業せずに、通り抜けてください。

5) 外周作業後内工程作業できないほ場

次のようなほ場では、最初の走行ラインと対辺が平行でないため外周作業後内工程作業はできません。



対処方法としては、1ほ場を2区画に分割することにより作業することができます。 ほ場形状に合わせて、外周作業後内工程作業、隣接作業を組み合わせて作業してください。



※トラクタのハンドルを大きく切ってしまうと、受信機が旋回したと感知し、誤動作を起こす場合があります。 枕地に入る場合は、ふくらんで進入しないでください。

5. 旋回半径が大きいときの注意

旋回半径が10m以上の場合、旋回点がズレた状態で記憶されてしまう場合があります。そのときは、旋回点で一時停止し、「開始」ボタンを押して手動で旋回点を記憶させてください。



6. ロボットトラクタや自動操舵を使用する場合

ロボットトラクタや自動操舵を使用する場合は、以下のどちらかの方法で作業してください。

方法 1:外周均等割を無効にし、自動操舵の誘導間隔の設定とコントロールボックスの散布間隔の設定 (および有効散布幅)を合わせて作業する。

- コントロールボックスの散布間隔の設定は有効散布幅に合わせる必要があります。
- 外周均等割を有効にしていると、内工程散布時にナビゲータの誘導間隔が自動調整され、自動操舵の誘導 間隔とずれが生じ、正常に作業できない場合があります。
- ・ 自動操舵の誘導間隔は一定であることが前提です。自動操舵の誘導間隔が途中で変化すると、ナビゲータ の誘導間隔とずれが生じ、正常に作業できないことがあります。

方法2:「フリーラン」で作業する

- 経路誘導スタイルを「フリーラン」に設定すると、自動操舵も含めて任意の走行経路で散布を行うことができます。
- フリーランでは、枕地シャットオフ機能は働きません。隣接散布の経路で作業するか、散布を停止する場合はコントロールボックスのスイッチによる停止操作を行ってください(散布を再開する際も、スイッチによる開始操作が必要です)。
- フリーランでは、後進時の自動散布停止機能は働きません。後進時に散布を停止する場合は、コントロールボックスのスイッチによる停止操作を行ってください(前進時に散布を再開する際も、スイッチによる開始操作が必要です)。

9 施肥マップ連動可変施肥

1. 施肥マップ連動可変施肥について

施肥マップ連動可変施肥とは、あらかじめ作成した施肥マップを用いて走行することで、ポイントごとに 指定した施肥量をリアルタイムで検出し、組み合わせた肥料散布機(ブロードキャスタ等)が自動で肥料 の散布量をコントロールしながら施肥作業を行うことです。

本製品では、コントロールボックスと組み合わせた状態で施肥マップを読み込むことで、施肥マップ連動 可変施肥を行うことができます。対応する施肥マップの形式はISO形式とKML形式です。

- 取扱い上の注意 -

● 1つのUSBメモリに対して保存できる施肥マップは1つまでです。複数の施肥マップを保存しても読み込むことはできません。

2. ISO形式

ISO11783-10:2009(JIS B 9225-10:2016)に基づいて作成された施肥マップです。 ①別途マップサプライヤ等から提供していただき、ISO形式の施肥マップを入手してください。

- その際、本製品で施肥マップを読み込むためには、書式について以下の制約があります。
- ・一つの施肥マップにおけるほ場数は最大25枚
- ・ほ場外形は最大25角形
- ・ほ場番号は最大65534
- ・ほ場名の字数制限は最大半角16文字(全角8文字)
- ・全角文字はほ場名にのみ使用可能
- ・半角カナ文字は使用不可
- ・数値の指数表記は不可
- ・散布量の単位は(mg/m)とする
- ②USBメモリにフォルダ名を「TASKDATA」としたフォルダを作成してください。

その中に「TASKDATA. XML」と各バイナリファイル (.bin)を保存してください。

USBメモリをナビゲータに差し込み、マップの読み込みを行ってください。

※GPSナビキャスタはISO 11783で許容されているすべての記述フォームへの対応は致しておりま せん。

マップ提供サービスサプライヤから施肥マップの供給を受ける場合は、提供元へ弊社製品への対応可否の 事前のお問い合わせ・ご確認をお願いいたします。また、ISO形式の施肥マップをお客様ご自身で作成 する場合も同様に、作成ツール・アプリの提供元への弊社製品への対応可否の事前確認をお願いいたしま す。

- 取扱い上の注意 -

● USBメモリに保存する際、「TASKDATA」フォルダは他のフォルダの中に入れないでください。施肥マップが読み込めなくなります。

3. KML形式

対応したGISツールで作成することのできる形式の施肥マップです。基本的にはツール上での目視により施肥マップ作成作業を行いますが、生育状態を判別できる衛星画像や航空写真をベースにして、より正確な施肥マップを作成することも可能です。使用するGISツールの仕様を参照してください。

- ※ GISツールの仕様に関するお問い合わせは弊社では対応致しておりません。
- ※ KML形式施肥マップは本製品の独自仕様であり、マップの仕様に関してのGISツール提供元へのお 問い合わせはご遠慮くださいますようお願い致します。

PC上でKMLファイル作成が可能なツール(2022年11月時点)

ツール	有償・無償	提供元					
ArcGIS Earth	無償	ESRI ジャパン					
Z-GIS	有償	JA全農					
国土地理院電子地図	無償	国土地理院					
Google Earth / Google Earth Pro	無償	Google					
その他、以下の条件を満たすGISツールであれば使用可能							
・地図上にポリゴンを自由に作成でき、ポリゴンに名前を付けることができる							

作成したポリゴンをまとめてKML形式で保存できる

※各ツールの仕様変更により非対応となる場合があります。

以下の記述方法で施肥マップを作成してください。

- ①GISツール上でほ場や可変施肥領域をポリゴン(多角形)で描画してください。
 - ・ポリゴンをほ場として認識させたい場合は、ポリゴン名称を「ほ場名@散布量」としてください。
 「ほ場名」には半角16字(全角8字)以内の文字数でほ場名を入力してください。
 「散布量」にはベースとなる散布量(kg/10a)を入力してください。小数点以下は1桁まで有効です。
 - ・ポリゴンを可変施肥領域として認識させたい場合は、ポリゴン名称を「@散布量」としてください。
 - 「散布量」にはベースとなる散布量(kg/10a)を入力してください。小数点以下は1桁まで有効です。 ・可変施肥領域上にもう一つの可変施肥領域を重ね合わせる場合は「@@散布量」としてください。ただし、 可変施肥領域を3重に重ねることはできません。
 - ※「ほ場名」に半角カナ文字は使用できません。
 - ※「@散布量」もしくは「@@散布量」は半角で入力してください。
 - ※可変施肥領域の点はほ場内に描画してください。
 - ※ポリゴンは、ほ場外形最大25角形、可変施肥領域最大16角形、ほ場数は50枚、可変施肥領域数は 200か所まで描画可能です。

「ほ場ポリゴンの合計角数×2+可変施肥領域の合計角数」の最大は2000角までです。

- ※ 可変施肥領域をほ場外に描画しても認識できません。ほ場内に描画してください。
- ※「@@散布量」により2重に可変施肥領域を重ね合わせた場合は、ログの「ほ場散布量(理論値)」に多 少の誤差が生じます。実際の散布作業は正常に行うことができます。



②①で作成した施肥マップをKMLファイルで保存してください。 KMLファイル名は「FieldMap.kml」または「doc.kml」としてください。

③USBメモリに作成したKMLファイル(.kml)を保存してください。 USBメモリをナビゲータに差し込み、マップの読み込みを行ってください。

- 取扱い上の注意 -

- ●ポリゴンへの散布量指定は、ポリゴン名に記入することでのみ可能です。GISツール上でポリゴンに 割り当てられる他の設定項目に記入しても反映されません。
- USBメモリに保存する際、KMLファイルはフォルダの中に入れないでください。施肥マップが読み 込めなくなります。

4. KML形式施肥マップ作成上の注意

下図のような施肥マップにより作業を行った場合、意図しない動作をする可能性があります。①~④に注 意して施肥マップ作成を行ってください。

①可変施肥領域の重ね合わせは2重(@@)までです。それ以上(@@@等)の描画を行わないでください。 ②可変施肥領域はほ場外にはみ出さないように描画してください。

③「@」どうしもしくは「@@」どうしで可変施肥領域を重ね合わせないでください。

④ほ場外に描画した可変施肥領域は無効になります。必ずほ場内に描画してください。



対応できないKML形式施肥マップの作成例

5. 施肥マップの座標補正(マップ上の座標とほ場の座標のズレを修正する)機能

GISツールの画像上の座標は実際のほ場の座標とはズレが発生する場合があります。 一般的には10m以内ですが、ご使用になるGISツールによってはズレがさらに大きい場合があります。

ズレを補正する場合は、補正の基準点(後述)にナビゲータを設置したトラクタで移動し、GPSアンテ ナが基準点の真上に位置する状態で「座標補正」操作をすることにより、USBメモリ上に「座標補正デー タファイル」が作成され、その後はズレが補正された状態で施肥マップを利用することができます。 「座標補正データファイル」はUSBメモリ上にmapshift.txtという名称で保存され、一度作成しておけば その後の電源起動時に補正データが読み込まれ、対象となる施肥マップの座標が自動で補正されます。

※ 座標補正データファイル (mapshift.txt) が書き込まれたUSBメモリで別の施肥マップを使用する場合は、このファイルを削除してから使用してください。

(1) KML形式施肥マップの座標補正(マップ上の座標とほ場の座標のズレを修正する)機能

座標補正操作の手順

①施肥マップ上に基準点を設定

KML形式の施肥マップの作製時、座標補正を実施する基準点を決めて、点を描画し、名称を半角大文字4文字で「BASE」とします。

点が描画できないGISツールの場合は正方形に近い形状のポリゴンをなるべく小さく描画し、名称を半角大文字4文字で「BASE」とします。(形状は四角形のみ有効で、中心が基準点となります)

・基準点はマップ上のほ場近辺で位置が目視または計測可能、かつトラクタで侵入可能な場所で設定します。 ※トラクタを基準点で停止させて操作を行うため、安全に停止して作業可能な場所に配置してください。

・ひとつのマップで一箇所のみ設定できます。

・基準点の推奨位置は「長方形で幅が25m以上あるほ場」内のコーナー近辺で、ほ場外形線の2辺からの距離が散布間隔の半分の地点です。この位置で座標補正操作を実施すると、ランプにより補正結果が確認可能です。補正操作後ナビゲータの画面上部のガイドランプの右・左が両方点灯する事を確認してください。



② SBAS信号受信安定まち

ナビゲータをトラクタに設置してGPSアンテナが基準点の真上になる位置まで移動し、電源を投入して SBAS信号が受信状態になるまで待機します。

→3~5分連続でSBAS受信状態が継続するのを待ってから座標補正操作を行います。

③ 座標補正操作

SBAS受信状態が安定後「開始」ボタンを長押し(5秒以上、ブザーが鳴るまで)する事により、座標 補正の操作画面が表示されます。初期画面は「補正データ作成モード」ですが、[+][-]ボタンで「補 正データ消去モード」と交互に切り替わります。



- ・作成モード(初期画面)で[開始]ボタンを押すと座標補正操作が実行されます。
 →補正データファイルがUSBメモリ上に作成され、施肥マップが再度読み込まれます。
 →過去に作成された補正データファイルがあれば内容が更新されます。
- ・消去モードで[開始]ボタンを押すと補正データがクリアされます。(補正データファイルは残ります)
- ・[終了]ボタンを押すと何もせず座標補正操作が終了します。
- ・補正距離が10mを超えると補正距離の表示が点滅します。
- ・補正距離が100mを超えるか、座標補正点の登録がないときは「99.9m」と表示されます。
- ・補正基準点の登録が無いか、補正基準点が複数ある場合、または補正距離が15mを超えた場合は補正 機能が使用できません。
- ※ 補正データファイルが作成(更新)されるとブザーが短く1回、クリアされると2回鳴ります。
- ※ 補正距離が極端に長い(通常は画像と座標のズレは10m以内*1)場合は「間違ったほ場への進入」、「マップ作製時の基準点の設定ミス」「GPS信号やSBAS信号の受信状態」等を再度確認願います。

(2) ISO形式施肥マップの座標補正(マップ上の座標とほ場の座標のズレを修正する)機能

座標補正操作の手順

 補正基準点ファイル(補正基準点のみを記述したKMLファイル)を作成
 項①と同様の手順で、<u>補正基準点のみを記述</u>したKML施肥マップを作製し、ファイル名称を半角4 文字で「BASE.kml」とします。→このファイルが補正基準点ファイルとなります。

このファイル内でほ場外形や散布領域をKML施肥マップと同様の書式で記述しても認識されません。

・基準点はマップ上のほ場近辺で位置が目視または計測可能、かつトラクタで侵入可能な場所で設定します。 ※トラクタを基準点で停止させて操作を行うため、安全に停止して作業可能な場所に配置してください。

- ・ひとつのマップで一箇所のみ設定できます。
- ・基準点の推奨位置は「長方形で幅が25m以上あるほ場」内のコーナー近辺で、ほ場外形線の2辺からの距離が散布間隔の半分の地点です。この位置で座標補正操作を実施すると、ランプにより補正結果が確認可能です。補正操作後ナビゲータの画面上部のガイドランプの右・左が両方点灯する事を確認してください。



② I SO形式の施肥マップが入ったUSBメモリに補正基準点ファイルをコピー

ISO形式の施肥マップが入ったUSBメモリに、①で作成した補正基準点ファイルをコピーします。 ファイルは「TASKDATA」フォルダ内ではなく、USBメモリのルートフォルダ直下に置いてください。

③座標補正操作

座標補正操作はKML形式施肥マップの座標補正と同様です。1.項②~③の手順を実施してください。

6. ISO形式施肥マップでほ場外形を読みこまずに使用する機能

ISO形式施肥マップで、グリッドデータの座標は精度が高い場合でも、ポリゴン外形線データの座標が 実際のほ場よりズレが大きければ、ほ場内で作業しているにも関わらず「ほ場外」と判定され、正しく運転できない場合があります。その場合は下記の操作でほ場外形判定を無効にして運転してください。

※ このような場合に座標補正機能を使用するとグリッドデータの座標も補正されてしまいます

ISO形式施肥マップに25角形より多い画数のほ場が登録されていて、マップ読み込み時にエラーが出る 場合でも、同様の方法で使用可能です。

① メニュー操作

メニュー操作でほ場自動検出の設定を [ISO 外形無効] に変更します。



- ・最初の起動時に画数が多い I SO形式の施肥マップを読み込んでエラーとなった場合でも、上記のメニュー操作を実施するとマップが再読み込みされ、エラーが発生しなくなります。
- ・KML形式施肥マップで(ISO外形無効)を選択しても、自動検出は無効ですが、外形線は無効となりません。

②ほ場選択操作

ほ場自動検出の設定が(IS0外形無効)または(無効)のときはほ場内に侵入してもほ場を検出しません。 (表示が「ほ場外」のまま)

[開始]ボタン又はブロードキャスタのレバー操作により運転を開始したのち、ほ場選択専用メニューから [+][-]ボタンを操作して作業するほ場を選択してください。

③運転

作業するほ場が画面に表示された状態で[開始]ボタンを押すと運転が始まります。 (ISO 外形無効)の状態で運転すると、ほ場外形は下図の様に認識されます。

FE	FE	FE	FE	FE	FE	FE	FE	FE	FE	FE	FE	FE	FE	FE	FE
FE	FE	FE	FE	FE	FE	FE	FE	,1	1	1	1	RE	FE	FE	FE
FE	FE	FE	FE	FE	FE	FE	,¥	1	1	1	1	1	ì.	FE	FE
FE	FE	FE	FE	FE,	1	1	1	1	1	1	1	1	4	FE	FĽ
FE	FE	FE	FE	,1	1	1	3	1	3	3	3	1,	1	FE	FE
FE	FE	FE	1,1	1	1	1	4	3	3	1	1	,1	FE	FE	FE
FE	FE	1	1	1	1	1	3	3	1	1	1	FE	FE	FE	FE
FE	FE	1'	1	1	1	1	1	1	1	1/	1	FE	FE	FE	FE
FE	1,	1	1	1	3	1	1	1	1	1	FE	EE	FE	FE	FE
FE	,1	1	1	2	2	1	1	1	2	1	FE	FE	FE	FE	FE
FE	1	1	1	2	2	1	1	1,	1	FE	FE	FE	FE	FE	FE
FE	FÊ,	1	1	3	1	1	1	FE							
FE	FE	¥.	1	1	1	1	1	FE							
FE	FE	FE	1	1	1	1'	FE								
FE	FE	FE	ì	1	1	1	FE								
FE	FE	FE	FE	` ,1	,1	FE									
FE	FE	FE	FE	1	FE										

10 作業ログ

USBメモリを挿入した状態で電源を入れて作業を行うと、作業履歴と各作業ログが自動で作成されます。作成するログファイル形式は、CSV形式とKML形式から選択することができます。

1. 作業履歴

1日の作業履歴がテキスト形式で自動作成されます。ファイル名は「YYMMDDNavi.txt」(YY:西暦下2桁 MM:月 DD:日をあらわす)で以下について各ほ場ごとの履歴が記録されます。

			型式別記録内容				
	項目名	説明	施肥マップ 未使用時	ISO 形式 施肥マップ 使用時	KML形式 施肥マップ 使用時		
	ROM Version	ナビゲータのソフトウェアバージョン ※作業日誌1つにつき1回のみ出力される	0	0	0		
	作業日	作業年月日	0	0	0		
	開始時間	作業開始時刻	0	0	0		
	終了時間	作業終了時刻	0	0	0		
	使用作業機	使用した作業機	0	0	0		
	ほ場名	作業を行ったほ場名		0	0		
	ほ場面積	施肥マップから読込んだほ場の面積		0	0		
	ほ場散布量(理論値)	施肥マップから読込んだほ場に散布する 予定の資材重量の目安			0		
作	積算散布量(理論値)	実際に行った作業より計算した 散布資材重量	0	0	0		
業	積算散布量(実績値)	実際に散布した散布資材重量(LC 計量)	0	0	0		
報	開始時の肥料重量	開始時に測定したの資材重量	0	0	0		
	終了時の肥料重量	終了時に測定したの資材重量	0	0	0		
	肥料流動測定値	制御前後での肥料流動測定値変化	0	0	0		
	誘導間隔	作業開始時と終了時の誘導間隔	0	0	0		
	散布間隔	作業開始時と終了時の散布間隔	0	0	0		
	ログファイル名	出力した作業ログファイル名	0	0	0		
	ISO形式施肥データ名	使用したISO形式施肥マップの データファイル名		0			
	終了状態	作業終了時の状態記録 エラー情報が記録された場合は 「8 不調処置一覧表」を参照してください	0	0	0		
	ゼロ点設定	0kg 時のセンサ値	0	0	0		
	重量補正	1t 当たりのセンサ値	0	0	0		
	散布量自動調整	散布量自動調整の設定値	0	0	0		
	旋回開始音	旋回開始音の設定値	0	0	0		
	経路誘導スタイル	経路誘導スタイルの設定値		0	0		
設定	誘導間隔の下限値	誘導間隔下限値の設定値 ※経路誘導スタイルが[外周均等割有効]の場合のみ記載		0	0		
悄 報	ほ場自動検出	ほ場自動検出機能の設定値	0	0	0		
	枕時シャットオフ	枕地シャットオフの設定値	0	0	0		
	アンテナ - 作業機距離	アンテナ - 作業機距離の設定値	0	0	0		
	肥料流動測定値	肥料流動測定値の設定値	0	0	0		
	ログファイルの形式	ログファイル形式の設定値	0	0	0		
	経路誘導間隔	誘導間隔の設定値	0	0	0		

- 取扱い上の注意 -

- ●ほ場散布量は、施肥マップの作成方法によっては多少の誤差を生じる場合があります。
- 積算散布量は、施肥マップ作成ツールの仕様や走行コース取りによっては、ほ場全体の散布量とは異な る場合があります。
- 実際の肥料散布量は、肥料の物理特性によってはほ場散布量、積算散布量の値と大きく異なる場合があります。

は場一枚あたりの散布量で管理したいときは、ほ場散布量の値に近づくようにシャッタ開度を調整して ください。

作物に対する散布量で管理したいときは、積算散布量の値に近づくようにシャッタ開度を調整してくだ さい。

※シャッタ開度の調整方法は「5-5 作業前設定」を参照してください。

2. 作業ログ

CSV形式

表計算ソフト等で見ることのできる形式です。

ファイル名は「YYMMDD_ほ場名_追番.csv」(ほ場外で作業を開始した場合のほ場名は「@LOG」)で、ほ場 1枚ごとに以下の数値が記録されます。

散布点緯度	散布点経度	速度(km/h)	誘導間隔(cm)	散布間隔(cm)	散布量(kg/10a)	肥料流動測定値	受信状態	散布状態	LCU状態
43.316938	141.7589853	10	1000	1000	10	75	2	0	0
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
	•			· ·		•	•	· ·	•

- •散布点緯度(°)
- •散布点経度(°)
- ▪速度(km/h)
- •誘導間隔(cm)
- •散布間隔(cm)
- ·散布量(kg/10a)
- ·肥料流動測定值(sec)
- ・受信状態(GPSの受信状態)0:GPS受信不良,1・6:SBAS受信不良,2・9:SBAS補正有効
- ・散布状態(シャッタの散布状態)0:異常なし、1:スピードオーバー、2:肥料流動測定値が上限、3:肥料流動測定値が下限
- LCU状態(ロードセルユニットの状態)0:異常なし、1:切断、2:異常

(2) KML形式

GISツールで読み込むことで、作業ログを表示させることができます。

ファイル名は「YYMMDD_ ほ場名_ 追番.km1」(ほ場外で作業を開始した場合のほ場名は「@LOG」)で、ほ場 1枚ごとに以下のデータが記録されます。

PC上でKML形式のログが表示可能なツール(2022年11月時点)

ツール	有償・無償	提供元
ArcGIS Earth	無償	ESRI ジャパン
国土地理院電子地図	無償	国土地理院
Google Earth Pro	無償	Google
Google Earth	無償	Google

※各ツールの仕様変更により非対応となる場合があります。

※「国土地理院電子地図」は表示倍率不足のため使用できない場合があります。



①ほ場名や作業情報が表示されます。

②作業情報表示ボタンです。

作業情報を表示させる場合はクリックしてください。

③散布量のカラースケールが8段階で表示されます。

④作業したほ場の外形です。

⑤作業軌跡が表示されます。

散布を停止しているときは赤色の線、散布を行っているときはカラースケールに応じた色で散布範囲が表示されます。

散布範囲の枠線が白以外の場合、下記の異常が発生しています。

・枠線が黄色の場合

スピードオーバー状態です。実散布量が少なくなっている可能性があります。

・枠線が青色の場合

SBAS受信不良の状態です。位置精度が落ちている可能性があります。

※GISツールにより読込操作、表示形式が変わります。

※各地点の散布量は設定・位置情報より算出した理論値です。

11 GPS信号の仕様(技術資料)

①GPSナビキャスタの動作に必要なメッセージ(NMEA_0183相当)

- ・GGA 5 Hz 北緯、東経、GPS測位状態のデータソース
- ・VTG 5 Hz 速度のデータソース (km/h)
- ・ZDA 5~1 Hz 時刻のデータソース

②運転に必須となる測位状態

・GGAメッセージでGPS測位状態が「ディファレンシャル測位」と判定されなければ運転時にエラー 警告が表示される。 有効となる条件:GPS測位状態=2または4または9

③GPS信号コネクタの仕様(下図点線部 セツゾクコードの5Pコネクタ)



コネクタ品番 矢崎PAコネクタ 7119-3050





・GPS信号コネクタからの給電可能電流:1A

・信号:RS-232Cレベル、19200BPS、1STOP、NP、無手順

6 作業が終わったら

1 作業後の手入れ

▲ 注 意

 作業後の手入れをするとき、傾斜地や凹凸地 または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機 が不意に動き出し、事故を起こす事がありま す。

平坦で地盤のかたい所で行ってください。

作業後の手入れをするとき、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。
 エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて

行ってください。
調整や付着物の除去などをするとき、エンジンをとめずに、あるいは駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出しケガをする事があります。
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。

- 3点リンクで作業機を持ち上げて点検・調整 を行うとき、思いがけない原因で作業機が降 下してケガをする事があります。
 トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして 行ってください。
- 有機溶剤などで清掃を行うと、樹脂部品が破損する恐れがあります。
 清掃に使用する溶剤に関しては使用方法、注意点を確認し、樹脂部品に影響のないものを 選定してください。
- ボルト、ナット、ピン類のゆるみ、脱落がないか、 また、破損部品がないか確認してください。
 異常があれば、ボルトの増し締め、部品の補修 または交換をしてください。
- 作業終了時は、水洗いし、ホッパ内の肥料をき れいに流してください。特にホッパプレートと シャッタの間は、水洗い後、ホッパ内の水を切 るためシャッタはあけてください。
- 3. 樹脂部品の劣化を防止するため、作業しない間 は屋内等、日のあたらない場所で保管してくだ さい。

2 ホッパの反転

ホッパは後方に倒す事によって反転し、容易に点 検、清掃ができます。

1. ホッパの反転

- (1) リンチピンを抜きピンを抜いてください。
- (2) ホッパを後方にゆっくり倒してください。

2. ホッパの戻し

- (1) ホッパを前方にゆっくり戻してください。
- (2) フレームにピンを挿し、抜け止めにリンチピン を入れてください。

- 取扱い上の注意・

・強風時は、ホッパを反転させないでください。
 作業機が転倒し、破損することがあります。



3 トラクタからの切り離し

🛕 危 険

パワージョイントを外すとき、エンジンをとめずに行うと、思いがけない原因でパワージョイントが回転し、ケガをする事があります。
 エンジンをとめて行ってください。

🛕 注 意

- 配線を外さずにトラクタから切り離すとコードが断線します。
 必ずコード(電装品)をはじめに取り外してください。
- 作業機をトラクタに着脱するとき、傾斜地や
 凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが
 不意に動き出し、事故を起こす事があります。
 平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 作業後の点検を怠ると、機械の調整不良や破損などが放置され、次の作業時にトラブルを起こしたり、ケガをする事があります。
 作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。
- 作業機をトラクタに着脱するとき、エンジン をとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけ ずに行うと、思いがけない原因でトラクタや 作業機が不意に動き出し、事故を起こす事が あります。
 エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて 行ってください。

① 電装品(コード)を外してください。 ② スタンドを装着してください。

- 取扱い上の注意 ―

- スタンドキャスタのストッパが解除されていることを確認してください。(ストッパを効かせた状態でトラクタから切り離しするとストッパの効きが弱くなるおそれがあります)
- ③トラクタの油圧レバーを操作し、スタンドが地 面に接地するまでブロードキャスタを下げてく ださい。
- ④トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてください。
- ⑤ PTO軸からパワージョイントを外してください。
- ⑥トップリンク、右ロワーリンク・左ロワーリンクの順でトラクタから切り離してください。

4 長期格納するとき

- 1. 機械各部の清掃をしてください。
- 2. 電装品(コントロールボックス、ナビゲータ等) は室内で保管してください。電子部品やコネク タ類の露出部は、毛細管現象により水が浸入す る場合もあるので、水滴等が付かないように保 管してください。
- 3. 摩耗した部品、破損した部品は、交換してください。
- 5. 塗装損傷部は補修塗装、または、油を塗布し、 さびの発生を防いでください。 また、電装コネクタの端子には市販の防錆材を スプレーして下向きに保管してください。
- 6. 格納は風通しの良い屋内に保管してください。
- 7. ホッパは反転したまま保管しないでください。

7 点検と整備について

調子よく作業するために、定期的に行いましょう。 機械の整備不良による事故などを未然に防ぐため に、各部の点検整備を行い、機械を最良の状態で、 安心して作業が行えるようにしてください。

▲ 注 意

1

 点検整備をするとき、傾斜地や凹凸地または 軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不 意に動き出し、事故を起こす事があります。 平坦で地盤のかたい所で行ってください。

点検整備一覧表

- 点検整備をするとき、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 作業をするとき、カバー類を外して作業すると、ケガをする事があります。
 点検整備の後は、カバー類を元通りに取り付けてください。
- 3点リンクで作業機を持ち上げて点検・整備 を行うとき、思いがけない原因で作業機が降 下してケガをする事があります。
 トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして 行ってください。

時間	チェック項目	処置
	全ボルト・ナットのゆるみ	増し締め
新品使用1時間	※ロードセル部のみ特殊締付けトルクと	※ロードセル部は計量機能に影響がある
	なっているため下記図参照	ため、特殊締付けトルクでの確認
	①機械の清掃	
	● ホッパ内の肥料	
使用ごと	 ・ディスクプレートとホッパプレートの間の肥料 	
(始業終業点検)	②部品脱落·破損部	補充、交換
	③各部のボルト・ナットのゆるみ	増し締め
	④各部の油脂類	「3-3 給油箇所一覧表」に基づき給油、給脂
	①各部の破損、摩耗	早めの部品交換
	②各部の清掃	
こガンぬマ仏	③各部の給油、給脂	「3-3 給油箇所一覧表」に基づき給油、給脂
リーヘノ於「夜	④回動支点等の摩耗	早めの部品交換
	⑤塗装損傷部	塗装または油塗布
	⑥PIC軸等無塗装部	グリースまたは油塗布

※50±10Nmは増し締め不要

交換時にねじロックを塗布。

(ねじロックは「スリーボンド1373B」相当)※399±40Nmは増し締めを実施。



8 不調時の対応

▲ 注 意

- 不調対応処置・点検・整備をするとき、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出し、事故を起こす事があります。
 平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- ●不調対応処置・点検・整備をするとき、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、 思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。
 エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 作業をするとき、カバー類を外して作業すると、ケガをする事があります。 不調対応処置・点検・整備の後は、カバー類を元通りに取り付けてください。
- 3 点リンクで作業機を持ち上げて点検・整備を行うとき、思いがけない原因で作業機が降下してケガを する事があります。

トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。

1	不調処理一覧表	(本体)

症 状	原因	処置
シャック (ディフクプ	 ディスクプレートとホッパプレートの間 	●「6 作業が終わったら」に基づき清掃。
$ _ <) > () + \land) > () + \land > > $	に肥料が詰まる。	
	●回動支点部がさび付いている。	● さびを取り除き、グリースを塗布する。
四約がでたい	● 体田」 ている 肥料の水分が 互い	●ホッパ内部を清掃し、乾燥した肥料を
		使用する。
リアランプ・バック	● コードの接続不良または断線。	● 補修または部品交換。
ランプが動作しない、	● ランプの破損。	
もしくはトラクタ側	● バッテリ劣化による電圧の低下。	●バッテリ電圧(12V)の確認、充電、
の動作と連動しない。		交換。
	● 本機およびトラックの配線間違い。	●配線の確認。

2 不調処置一覧表(コントロールボックス)

<u>症</u> 状 (コントロールボックスの表示)	原因	処 置
コントロールボックスの 電源が入らない	 ●電源コードの⊕⊖接続違い ●電源取出部の2Pコネクタの接続不良 ●電源コードの断線 ●コントロールボックスの不良 ●バッテリ劣化による電圧の低下 	 ●「1-5-4 配線方法」に基づき配線 ●補修または部品交換 ●部品交換 ●バッテリ電圧(12 ∨)の確認、充電、交換
シャッタが動かない (「999」が点滅)	 本機シャッタ間に肥料が詰まる 回動支点部の固着 バッテリ劣化による電圧の低下 パワーウィンドモータのコネクタの 接続不良 	 ブロードキャスタ本体の取扱説明書の「作業後の手入れ」に基づき清掃 固着の原因を取除き、グリースを塗布してください バッテリ電圧(12 V)の確認、充電、交換 「1-5-4 配線方法」に基づき配線
(※ 2)	 パワーウィンドモータのコードの断線 電動シャッタユニットの本体への取付状態不良 	 補修または部品交換 レバーに取り付けているロッド長さを伸ばす 方向に再調整して、「4. 初期登録」でゼロ点 登録をやり直す
シャッタが動かない (「111」が点滅) (※ 2)	 肥料の入れすぎ 角度センサの故障(角度信号過大) 角度センサの3Pコネクタの接続不良 角度センサ入力線の断線 角度センサ(-)線の断線 	 入れる肥料を減らす 部品交換(※1) 「1-5-4 配線方法」に基づき配線 補修または部品交換(※1) 補修または部品交換(※1)
シャッタが動かない (「112」が点滅) (※ 2)	 角度センサの故障(角度信号過小) 角度センサ(+)線の断線 角度センサ入力線の被覆の破損や断線によりボディに接触している 	 ●部品交換(※1) ●補修または部品交換(※1) ●補修または部品交換(※1)
シャッタが開かない、開 度設定できない (電源投入時、表示部に 3ケタの数字が点滅)	 ● シャッタが開いている 	● コントロールボックスのレバースイッチを「停 止」側に倒してシャッタを閉じる
(強制的に速度表示にな り、数字が点滅する)	● シャッタ全開以上の設定値になって いる	● 設定速度、または設定散布量を減らす
開度が設定値と合わない (設定LED全てが点灯 し、表示部に0.5~18.0 の範囲の数字が表示)	● シャッタ18段階モードになっている	 「粒種」ボタンを長押し(3秒以上)する。 ●粒種LED(「粒」「砂」)のいずれか1つが点 灯になったら「粒種」ボタンを離してください。 元の状態に戻ります。
走行時、トラクタ車速を 表示しない (「速度」LED点滅、 「0.0」のまま)	 ● P T Oが停止している ● 後進走行している 	 ● P T O を入れる ● 前進走行する
「粒種」ボタンを押して も「粉」が点灯しない	● 中型スパウトモデルでは「粉」は選 択できません	 ●「砂」または「粒」で作業

※1 角度センサ交換の際は、角度センサの取り付け長穴位置がほぼ中央に来るように取り付けてください。 また、「ゼロ点登録」に基づきシャッタのゼロ点登録をおこなってください。

※2 電源を切るまで、全ての操作はできません。電源を入れ直してください。

3 不調処置一覧表(ナビゲータ)

症 状	原因	処置
ナビゲータの電源が入らな い	 ●電源コードの⊕⊖接続違い ●電源取出部の2Pコネクタの接続不良 ●電源コードの断線 ●バッテリ劣化による電圧の低下 ●ナビゲータのハーネスの4Pコネクタの 接続不良 ●ナビゲータのハーネスの断線 ●ナビゲータの不良 	 「1-5-4 配線方法」に基づき配線 「1-5-4 配線方法」に基づき配線 補修または部品交換 バッテリ電圧(12 V)の確認、充電、交換 「1-5-4 配線方法」に基づき配線 補修または部品交換 部品交換
コントロールボックスの電 源が入らない	 ● 電源コードの⊕⊖接続違い ● 電源取出部の2Pコネクタの接続不良 ● 電源コードの断線 ● コントロールボックスの不良 ● バッテリ劣化による電圧の低下 	 ●「1-5-4 配線方法」に基づき配線 ●「1-5-4 配線方法」に基づき配線 ●補修または部品交換 ●部品交換 ●バッテリ電圧(12 ∨)の確認、充電、交換
ナビゲータの誘導が始まら ない (開始スタンバイ画面が表 示されない) ナビゲータ画面に 「GPS 信号切断」もしくは 「GPS 受信不良」が表示さ れる	 GPS・SBASの受信状態が悪い SBAS受信可能状態になっていない GPSアンテナの断線・破損 GPSレシーバのハーネスの5Pコネクタの接続不良 GPSレシーバのハーネスの断線 GPSレシーバの不良 	 「2-4 受信状態について」に基づき、GPS・SBA Sの受信状態を確認 SBAS受信できない場所では作業できません GPSレシーバの初期設定(※1) 部品交換(※1) 「1-5-4 配線方法」に基づき配線 補修または部品交換(※1) 部品交換(※1)
作業中に間欠ブザーが鳴り 「SBAS 無」 が表示される		
作業履歴、作業ログが作成 されない ナビゲータ画面に 「USBメモリが認識でき ません」が表示される	 ● 電源投入時にUSBメモリが刺さっていない ● 作業途中でUSBメモリが抜けている 	 USBメモリが差さっていることを確認する 「5-5 作業前設定(コントロールボックス、ナビゲータ)」の「取扱い上の注意」に基づき抜けにくいUSBメモリに交換する
施肥マップが読み込めない 施肥マップ読み込み時にエ ラーコードが表示される	 ● USBメモリが刺さっていない ● マップの保存場所間違い ● 施肥マップの作成時の制約違反 	 ● USBメモリが刺さっていることを確認する ●「5-9 施肥マップ連動可変施肥」に基づき正しい場所にマップを保存する ●「8-4 施肥マップエラーコード一覧表」を確認の上、 「5-9 施肥マップ連動可変施肥」に基づき対応したマップを使用する
作業開始時に 間欠ブザーが鳴り 「ほ場外」 と表示される	 ●施肥マップに登録されているほ場の外側 で作業を開始している 	 意図してほ場外で作業を行っている場合はそのまま 作業を継続する 意図せずほ場外で作業を行っている場合は一度作業を 終了し、ほ場内に進入した後に再度作業を開始する
作業中に 間欠ブザーが鳴り 「ほ場外」 と点滅表示され 散布量が「0.0」になる	● 作業を開始したほ場から脱出している	● 作業を開始したほ場に進入する
ナビゲータ画面に「S-OVER」 と表示され、画面左下の LED が点滅する ログの散布範囲が黄色の枠 線で囲われる (強制的に速度表示になり、 数字が点滅する) ナビゲータ画面に「LC切断」	 シャッタ全開以上の設定値になっている ロードセルユニットからの通信が切断した 	 ●速度を落とす、または設定散布量を減らす ●「1-5-4 配線方法」に基づき配線
と表示される。		● 補修または部品交換
症 状	原因	処 置
---	-----------------------	-----------------------------
	● ロードセルユニットに異常が発生し動作	● 再起動
	していない	●「1-5-4 配線方法」に基づき配線
ナビゲータ画面に「LC異常」		● 補修または部品交換
と表示される。又は「」		● ロードセルユニットが正常に動作しない場合、ロー
		ドセルユニットの配線を外し、MGC(重量計のつい
		ていないGPSナビキャスタ)として使用できます
	● 自動補正(肥料流動測定値)の上限をオー	● シャッタが動作しているか確認
	バーしている	● 計量機能が正常に動作しているか確認
「「」」」 「」」 「」」 「」」 「」」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」」 「」」」 「」 「		● 車速が速過ぎないか確認
これかられる。		●「4 初期設定」「5 作業の仕方」に基づき使用肥料に
		あった設定になっているか確認
	● 自動補正(肥料流動測定値)の下限をオー	● シャッタが動作しているか確認
	バーしている(※3)	● 計量機能が正常に動作しているか確認
ノビクーダ回面に「F-Willy レキニャカス		● 車速が遅過ぎないか確認
C111000		●「4 初期設定」「5 作業の仕方」に基づき使用肥料に
		あった設定になっているか確認

※1 部品交換等により初めて使用するGPSレシーバはSBASを正常に受信できないことがあります。 その場合はナビゲータの「終了」ボタンを押しながら「電源」ボタンを押し、電源を投入してください。

「GPS Receiver Set」と表示され、正常に受信できるようになります。 ※2角度センサ交換の際は、角度センサの取り付け長穴位置がほぼ中央に来るように取り付けてください。また、「4-1シャッタ部のゼロ点設定」に基づきシャッタのゼロ点設定を行ってください。

※3 肥料の性状、設定値によっては自動補正しきれない肥料がありますので、ご注意ください。 特に、砂状肥料は条件により自動補正機能が正常に動作しない場合がありますのでご注意ください(5-8 作業時の注意)。

原因や処置の仕方がわからない場合は下記の事項とともに購入先にご相談ください。

- 1. 製品名
- 2. 部品供給型式 (型式)
- 3. 製造番号
- 4. 故障内容(できるだけ詳しく)

この商品は、予告無に仕様の変更をする場合があります。予めご了承ください。

4	施肥マ	ップ	゚エラ		ドー	覧表
---	-----	----	-----	--	----	----

	エラーコード	画面表示	エラー原因	
共	01 ~ 04	予期せぬエラー	未分類	
通 99		有効なほ場が発見できません	マップ内に有効なほ場を発見できない	
	05	マップ要素の表記不良	TZNの表記不良	
	06	マップ要素の表記不良	GRDの表記不良	
	07	マップのグリッドサイズオーバー	グリッドサイズが 26m を超えている	
I	08	マップのグリッド行列数オーバー	グリッドの行数または列数が 1010 を超えている	
5 0 1 1	09	マップのグリッド基準点が判読不能	GRDのバイナリファイル基準点を発見できない	
式 10	10	バイナリファイルがありません	紐づけされたバイナリファイルを発見できない	
11		ISOマップのほ場数オーバー	ほ場数が 25 を超えている	
	12 I SOマップの合計点数オーバー		登録点の合計が 500 を超えている	
	13	ISOマップの角数オーバー	ほ場外形が 25 角を超えている	
K	25	KMLマップのほ場数オーバー	ほ場数が 50 を超えている	
M	26	KMLマップの領域数オーバー	領域数が 200 を超えている	
形	27	KMLマップの合計点数オーバー	登録点の合計が 2000 を超えている	
氏	28	KMLマップの角数オーバー	ポリゴンが 25 角を超えている	

9 配線図

▲ 注 意

●トラクタからの電源供給が遮断されると、作業ログや設定が記録されない、GPSの受信が遮断される などのトラブルが生じるので、常時オンになる電源を使用してください。





[付属] 灯火器ハーネスの接続について(トラクタ側のコネクタ種類別)

トラクタ側の灯火器コネクタが日農工規格(8P)ではない場合、コネクタの種類に応じ、オプション部品の 使用や、配線の差し替えが必要です。下記の必要な対応に従って、灯火器ハーネスを接続してください。 後退灯出力配線のないトラクタの場合は、トラクタ販売店にご相談ください。

1. トラクタ側コネクタの種類と必要な対応

トラクタ側コネクタの種類	必要な対応
① 日農工規格 (8 P)	標準装備のハーネスで接続可能です。
② DIN規格7P	オプションまたは標準装備の「ヘンカンハーネス(160403)」が必要です。
③ 8 P (①以外)	配線一覧表に基づき、作業機側コネクタの配線差し替えを行ってください。
④ 6 P	オプションまたは標準装備の「ヘンカンハーネス(160403)」と、オプション の「チュウカンハーネスCP;コウドウ(163037)」が必要です。また、配線 一覧表に基づき、作業機側コネクタの配線差し替えを行ってください。

2. オプション部品一覧(コネクタのピン配置は接続面方向から見た図です)

^{(1) 160403} ヘンカンハーネス



(2) 163037 チュウカンハーネスCP; コウドウ



【 配線一覧表 】

			ヘンカンハーネス(160403)、チュウカンハーネス CP ; コウドウ(163037)								
		コネクタ		8 P		6 オ	P ス	6 P メス	ギボシ メス	DIN 規格 7P	
灯火器動作	配 線 色	トラクタ	日農工規格 (出荷時)	ヰセキ	クボタ	三菱	ヤンマー (出荷時)	三菱	クボタ (出荷時)	_	_
方向指示左	緑		3	6	4	4	4	2	1	_	1/L
ブレーキランプ	赤	मेल	4	5	5	5	5	4	3	—	6⁄54
テールランプ	黄	「「」「」「」」「」」」	6	2	3	1	1	3	5	—	5⁄58R
方向指示右	白	番号	5	1	7	7	6	5	6	—	4⁄R
アース	黒	7	1	8	2	2	ボディアース	ボディアース	ボディアース	_	3/31
バックランプ	茶		7	4	6	Ж	*	*	*	1	2∕54g

※:トラクタ販売店にご確認ください。

千歳本社 066-8555 千歳市上長都1061 番地2 TEL 0123-26-1123 FAX 0123-26-2412 **千歳営業所** 066-8555 千歳市上長都 1 0 6 1 番 地 2 TEL 0123-22-5131 FAX 0123-26-2035 豊 富 営 業 所 098-4100 天塩郡豊富町字上サロベツ1191番地44 TEL 0162-82-1932 FAX 0162-82-1696 **帯広営業所** 080-2462 帯広市西22条北1丁目12番地4 TEL 0155-37-3080 FAX 0155-37-5187 **中標津営業所** 086-1152 標津郡中標津町北町2丁目16番2 TEL 0153-72-2624 FAX 0153-73-2540 花 巻 営 業 所 028-3172 岩手県花巻市石鳥谷町北寺林第11地割120番3 TEL 0198-46-1311 FAX 0198-45-5999 仙台営業所 984-0032 宮城県仙台市若林区荒井5丁目21-1 TEL 022-353-6039 FAX 022-353-6040 小山営業所 323-0158 栃木県小山市梁 2 5 1 2 - 1 TEL 0285-49-1500 FAX 0285-49-1560 **東海営業所** 485-0081 愛知県小牧市横内字立野678-1 TEL 0568-75-3561 FAX 0568-75-3563 **岡山営業所** 700-0973 岡山県岡山市北区下中野704-103 TEL 086-243-1147 FAX 086-243-1269 **能本営業所** 861-8030 熊本県熊本市東区小山町1639-1 TEL 096-389-6650 FAX 096-389-6710 **都城営業所** 885-1202 宮崎県都城市高城町穂満坊1003-2 TEL 0986-53-2222 FAX 0986-53-2233